

資料2

前橋市社会福祉審議会
第5回高齢者福祉専門分科会(R8.6.23)

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

■ニーズ調査から見える本市の高齢者の傾向

(対象者:介護認定を受ける前の65歳以上の一般高齢者、事業対象者、要支援者)

【世帯構成】

高齢者のみの世帯の割合が前回調査(R4)と比べ増加傾向。特に、ひとり暮らし世帯が増加し、全体の約24%となっている。

【身体機能】

運動器機能リスク、転倒リスク、IADL(手段的日常生活動作能力)の割合に大きな変化はみられず、介護・介助を必要としている人の割合は減少傾向にある。

【外出】

全体の約16%が閉じこもりリスクを抱えており、R4の状況を維持している。一方で、一人でバスや電車(自家用車含む)を使って外出できる人の割合は、一般高齢者・要支援者で減少している。

【主観的健康観・幸福感】

主観的健康観は上昇傾向。主観的幸福感(8点以上)を回答した人の割合はR4と同程度。うつリスクを抱える人の割合は改善傾向にある。

【フレイル】

フレイルの認知度はR4と比べ10ポイント増加し、関心が高まっている。

【地域での活動】

地域での活動の割合は減少傾向であるが、地域づくり活動への参加意欲のある人の割合は全体の50%ほどある。また、収入のある仕事に取り組む人の割合が増加している。

【在宅医療】

通院が困難な状態になった場合、在宅医療を受けたい人の割合は全体の約56%となっており、前回調査から減少している。一般高齢者においては、在宅以外で医療を受けることを望む人は40%以上いる。

【認知症】

認知症リスクを抱える人の割合は改善している。また、認知症の相談窓口の認知度は増加した。家族・親戚以外の認知症の症状がある人への支援では、見守りや声掛けを実践している人がいる一方で、特に何もしていない人の割合も同程度ある。

【成年後見制度】

成年後見制度の窓口の認知度は全体の約31%で増加傾向にある。

【地域包括支援センター】

地域包括支援センターの認知度は全体の約45%。しかし、地区ごとの認知度に若干の差がある。

■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1) 調査の概要

①調査の目的

第10期まえばしスマイルプランの策定にあたり、要介護状態になる前の65歳以上の高齢者について、日常生活圏域における高齢者の生活の実態やニーズ、地域の課題を把握し、それらを反映した施策を検討することを目的としています。

②調査の対象

- ・要支援者 500人(無作為抽出)
- ・事業対象者 500人(無作為抽出)
- ・上記及び要介護者以外の高齢者 4,000人(無作為抽出)

③調査の方法

郵送

④調査の期間

令和7年12月

図表7-1: ニーズ調査の概要

圏域名	1号 被保険者	調査対象				調査人数				回収数								回収率
		一般	事業	要支援	総数	一般	事業	要支援	総数	一般	平均 年齢	事業	平均 年齢	要支援	平均 年齢	総数	平均 年齢	
北部・中部	6,016	4,573	136	356	5,065	244	31	31	306	162	75.5	23	85.6	21	86.0	206	77.7	67.3%
若宮・城東・中川	5,619	4,170	118	375	4,663	228	28	28	284	135	74.7	18	81.9	14	85.4	167	76.4	58.8%
文京・南部	6,205	4,936	82	313	5,331	252	31	31	314	178	76.0	23	84.9	26	84.7	227	77.9	72.3%
上川淵・下川淵	10,499	8,446	132	556	9,134	426	53	53	532	274	75.7	29	82.9	32	83.2	335	77.1	63.0%
芳賀	3,229	2,582	91	107	2,780	131	16	16	163	81	76.3	11	77.0	12	82.0	104	77.0	63.8%
桂萱	8,344	6,548	115	490	7,153	338	42	42	422	212	75.2	31	78.6	23	85.7	266	76.5	63.0%
東	7,955	6,456	144	320	6,920	323	40	40	403	218	75.3	20	84.8	28	84.6	266	77.0	66.0%
元総社・総社・清里	8,833	7,181	85	416	7,682	358	45	45	448	256	75.0	26	82.7	30	87.1	312	76.8	69.6%
南橘	11,179	8,850	206	562	9,618	453	57	57	567	287	74.6	43	82.7	39	85.4	369	76.7	65.1%
永明	7,002	5,543	137	356	6,036	284	35	35	354	181	75.8	23	85.8	20	84.5	224	77.6	63.3%
城南	5,665	4,629	84	257	4,970	230	29	29	288	155	74.4	18	81.1	20	84.4	193	76.1	67.0%
大胡	5,114	4,136	54	245	4,435	207	26	26	259	133	75.0	21	81.7	17	85.3	171	76.8	66.0%
宮城	2,631	2,169	22	101	2,292	107	14	14	135	62	74.3	12	85.8	8	83.8	82	76.9	60.7%
粕川	3,520	2,853	26	158	3,037	143	18	18	179	84	73.6	15	79.8	13	82.8	112	75.5	62.6%
富士見	6,809	5,605	157	250	6,012	276	35	35	346	167	74.9	25	81.6	28	83.9	220	76.8	63.6%
合計	98,620	78,677	1,589	4,862	85,128	4,000	500	500	5,000	2,585	75.1	338	82.5	331	84.8	3,254	76.9	65.1%

※本調査結果は、実際に回収された回収数に基づき集計したものであり、地域により回答者の年齢構成に偏りがみられます。そのため、当該結果は地域の実態を必ずしも正確に反映しているものではない点にご留意ください。

2) 調査結果

調査票の回収数は3,254通で、回収率は65.1%でした。各項目の結果は以下のとおりです。

(1) 家族や生活状況について

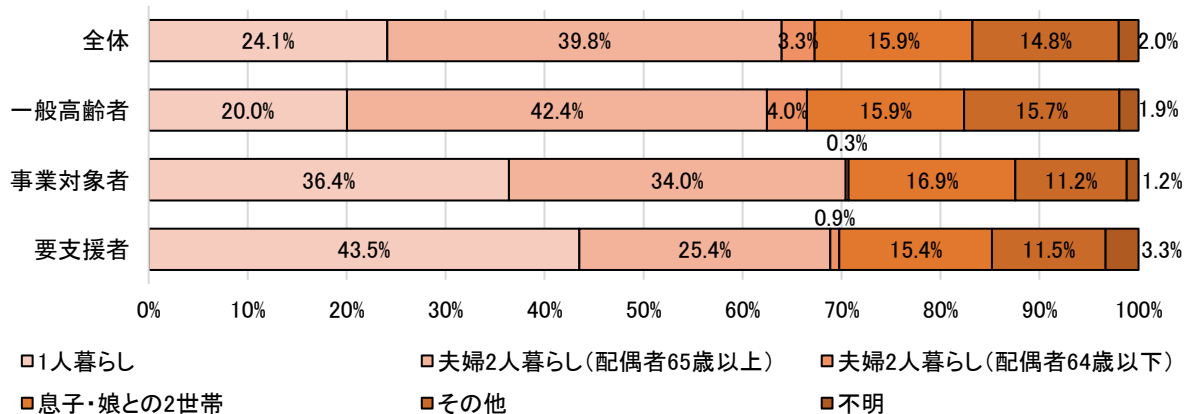
① 家族構成

前橋市全体では、高齢者のみの世帯(※)が63.9%という結果で、前回(令和4年度)調査と比べて3.5ポイント増加しました。中でも、ひとり暮らしの割合は2.4ポイント増加しました。事業対象者・要支援者の約40%がひとり暮らしであり、一般高齢者と比較して割合が多いことが分かります。

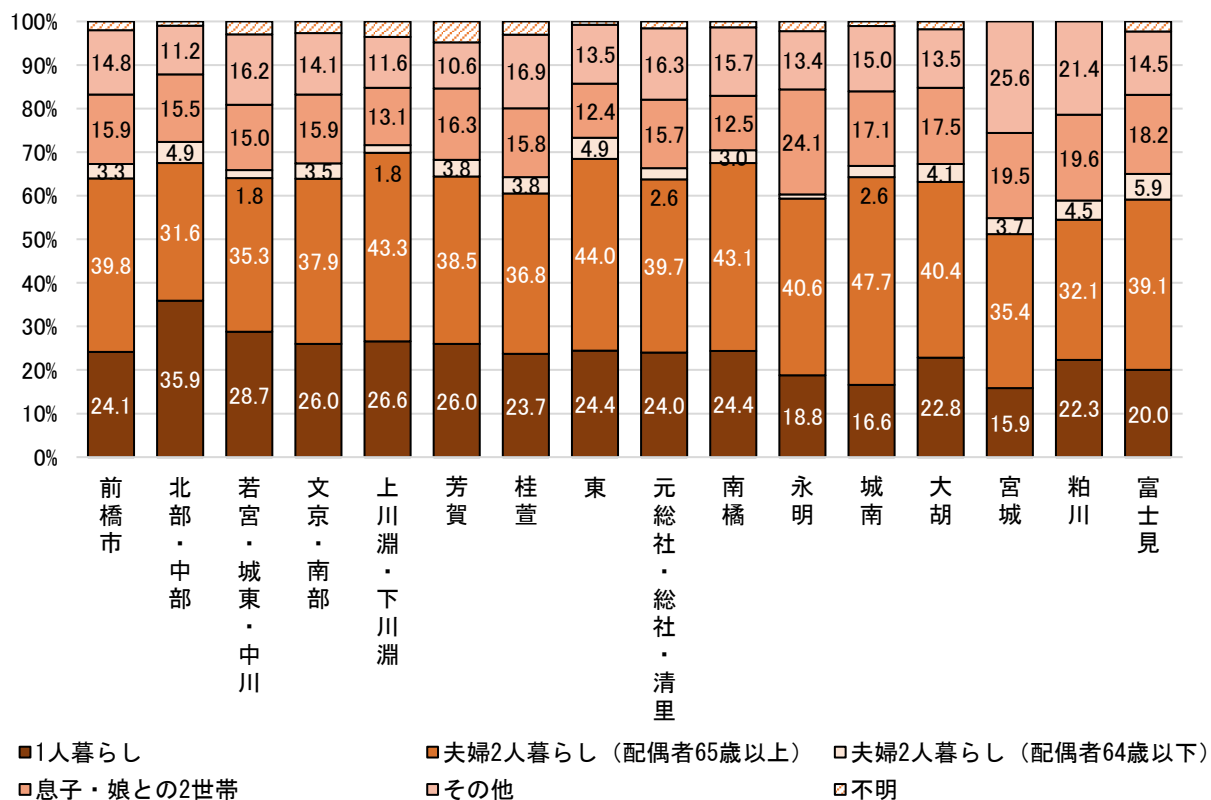
圏域別に見ると、北部・中部地区ではひとり暮らしの割合が35.9%と最も多く、一方で、城南、宮城地区ではひとり暮らしの割合が約16%と少なくなっています。また、北部・中部以外の地区では、高齢者のみの夫婦2人暮らし世帯の割合が最も多くなっています。

(※)高齢者のみの世帯はひとり暮らしと夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)の合計

図表7-2: 家族構成



図表7-3: 圏域別の家族構成(%)

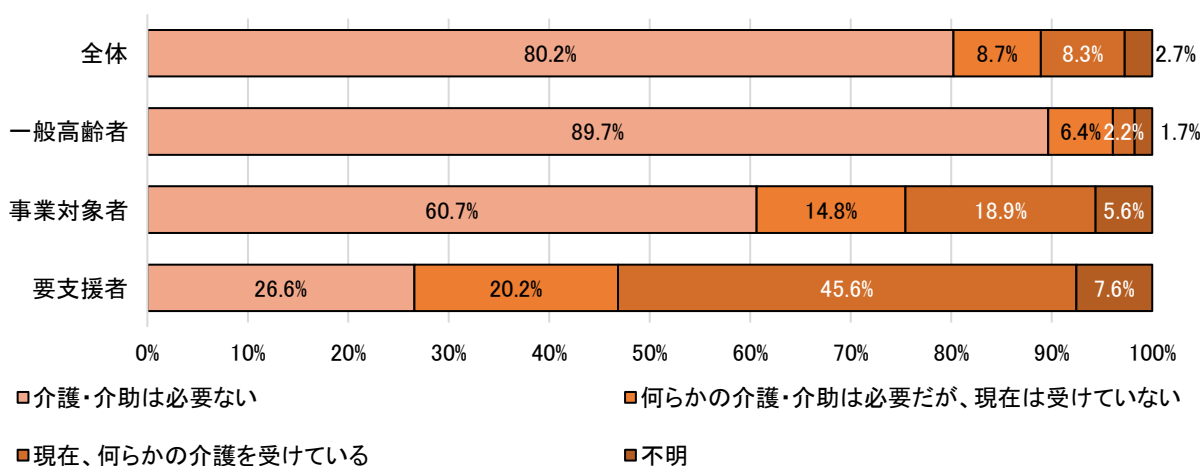


②介護・介助の必要性

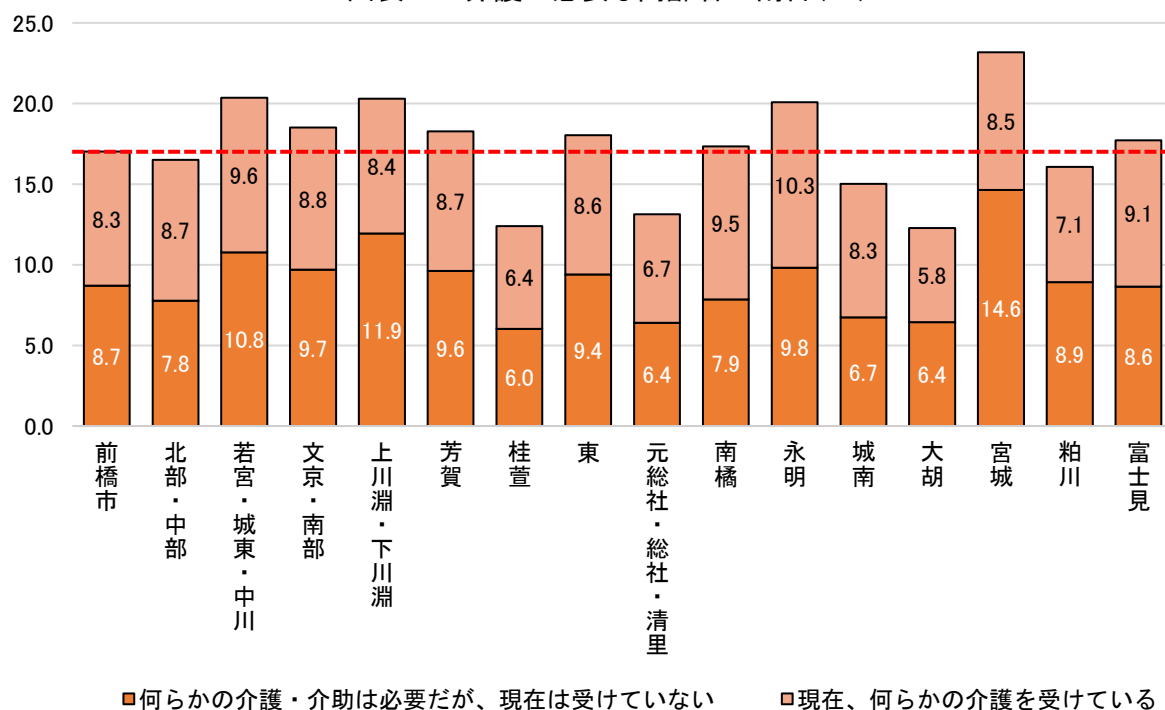
全体では、一般高齢者の約6%、事業対象者の約14%、要支援者で約20%が「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答しています。前回（令和4年度）調査と比べて一般高齢者は2.4ポイント、事業対象者は7.5ポイント減少しました。

圏域別に見ると、大胡地区では、「現在、何らかの介護を受けている」高齢者の割合が最も少なく、宮城地区では、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答した人の割合が最も多くなっています。

図表7-4:「普段の生活で介護・介助が必要か」の集計結果



図表7-5: 介護が必要な高齢者の割合(%)

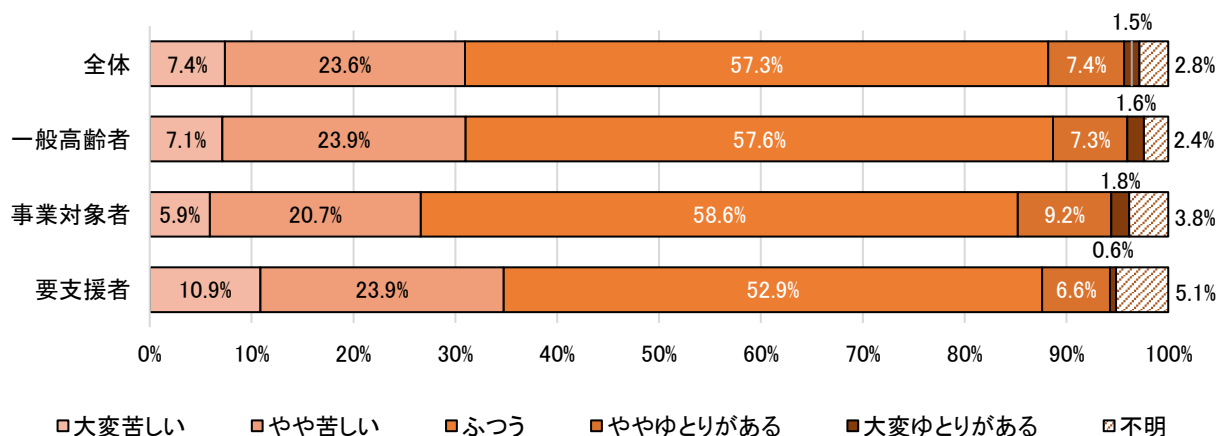


③経済的な暮らしの状況

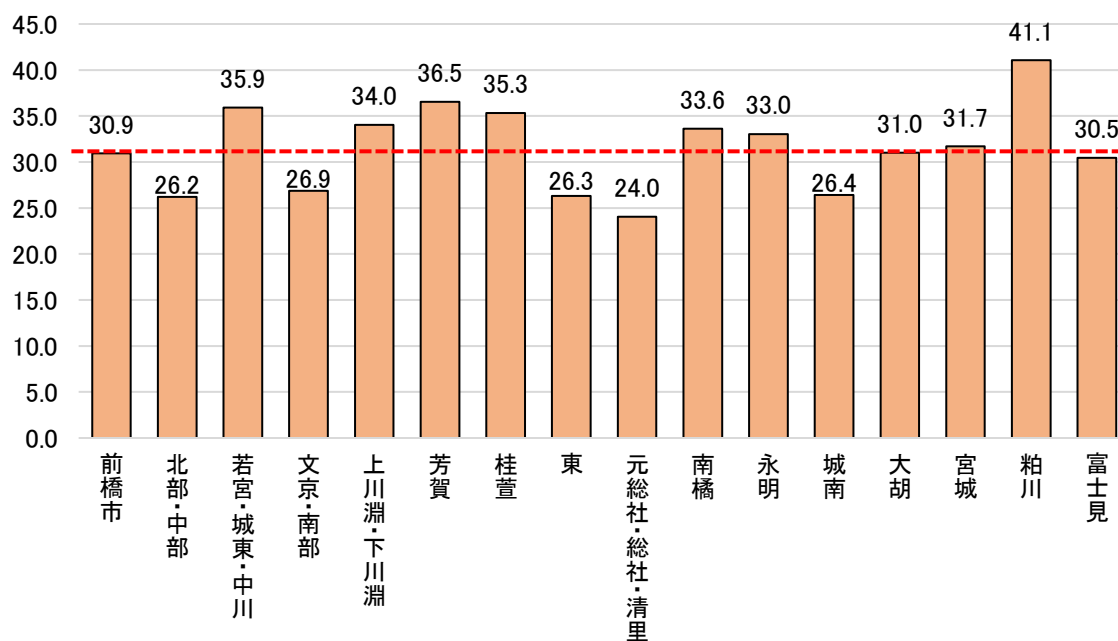
全体の約30%が現在の暮らしが苦しいと感じていると回答しています。前回(令和4年度)と割合に変化は見られませんでした。

圏域別に見ると、粕川地区は現在の暮らしが苦しいと感じている人の割合が41%と多く、元総社・総社・清里地区は現在の暮らしが苦しいと感じている人の割合が少なくなっています。

図表7-6: 現在の暮らしが苦しいと感じる高齢者の割合(%)



図表7-7: 圏域別の現在の暮らしが苦しいと感じる高齢者の割合(%)



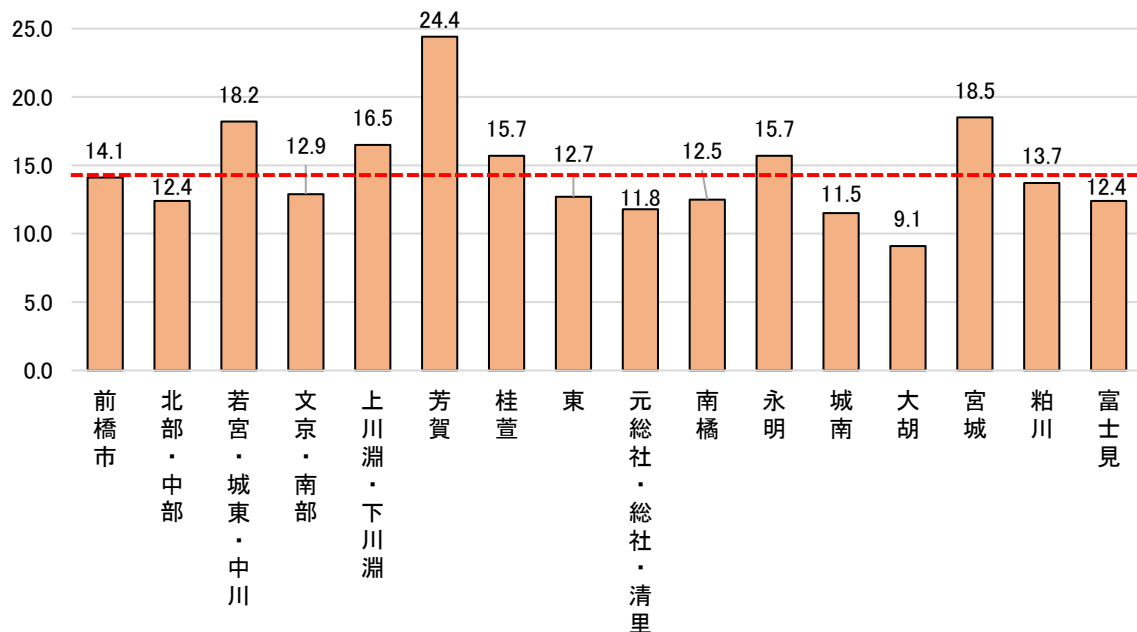
(2) 身体機能について

①運動器機能リスク

全体では、約14%の人の運動器機能が低下してきています。前回調査(令和4年度)と割合に変化は見られませんでした。

圏域別に見ると、特に若宮・城東・中川、芳賀、宮城地区は運動器機能リスクを抱えている人が多い一方で、元総社・総社・清里、城南、大胡地区は比較的风险が低くなっています。

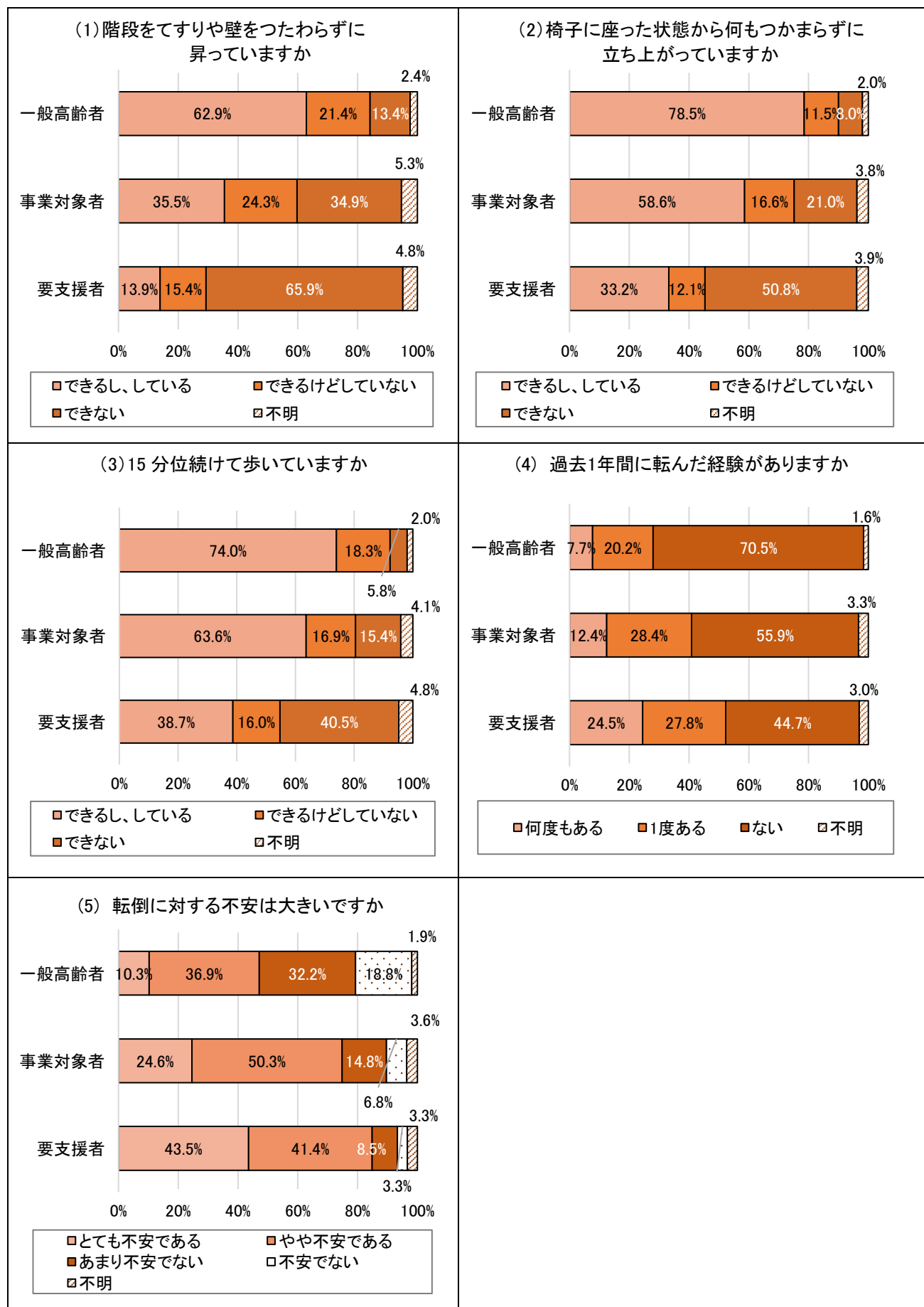
図表7-8:運動器機能リスク高齢者の割合(%)



※運動器機能リスク高齢者の割合は、図表7-9の5項目において、下表から色付きの項目を3つ以上選択した回答数から作成。

	設問内容	回答	
1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「できるし、している」又は「できるけどしていない」	「できない」
2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「できるし、している」又は「できるけどしていない」	「できない」
3	15分位続けて歩いていますか	「できるし、している」又は「できるけどしていない」	「できない」
4	過去1年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」又は「1度ある」	「ない」
5	転倒に対する不安は大きいですか	「とても不安である」又は「やや不安である」	「あまり不安でない」 「不安でない」

図表7-9: からだを動かすことへの区分別集計結果



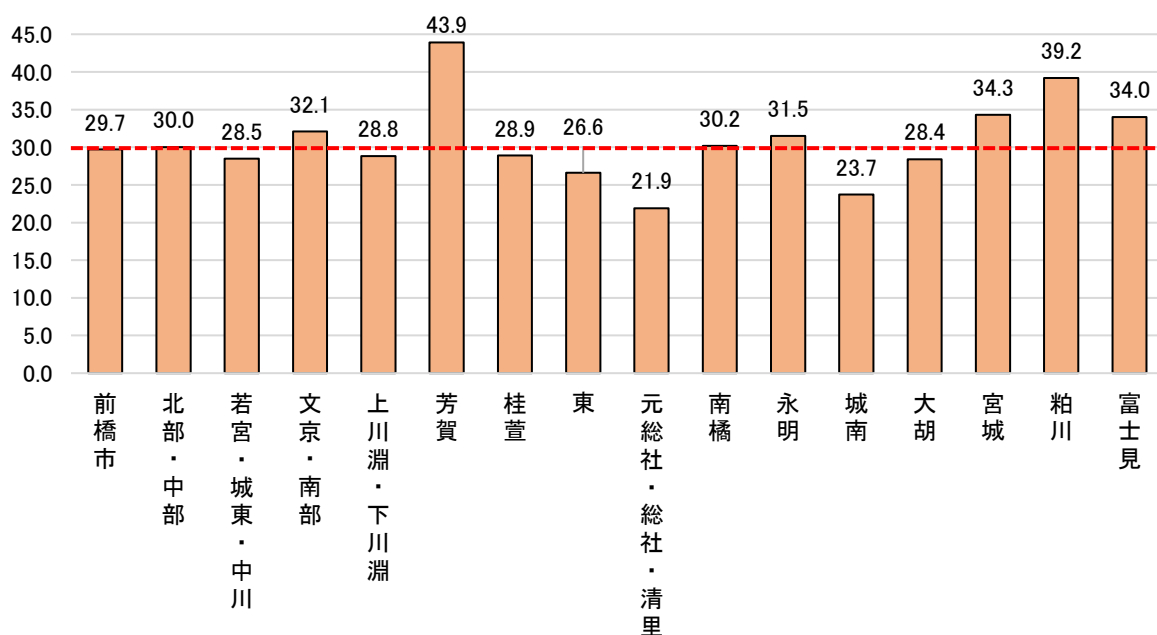
②転倒リスク

全体では、約30%の高齢者が、過去1年間に転倒した経験があると回答しました。前回調査(令和4年度)と比べ、1.8ポイント減少(改善)しました。

図表7-9-(5)において、要支援者のうち、約85%が転倒に対して不安を感じており、過去1年間の転倒経験が「何度もある」又は「1度ある」人は約50%となっています。

圏域別に見ると、芳賀地区は転倒リスクを抱えている人の割合が最も多くなっています。その一方で、元総社・総社・清里、城南地区は他の圏域よりも転倒リスクが低く、25%を下回りました。

図表7-10: 転倒リスク高齢者の割合(%)



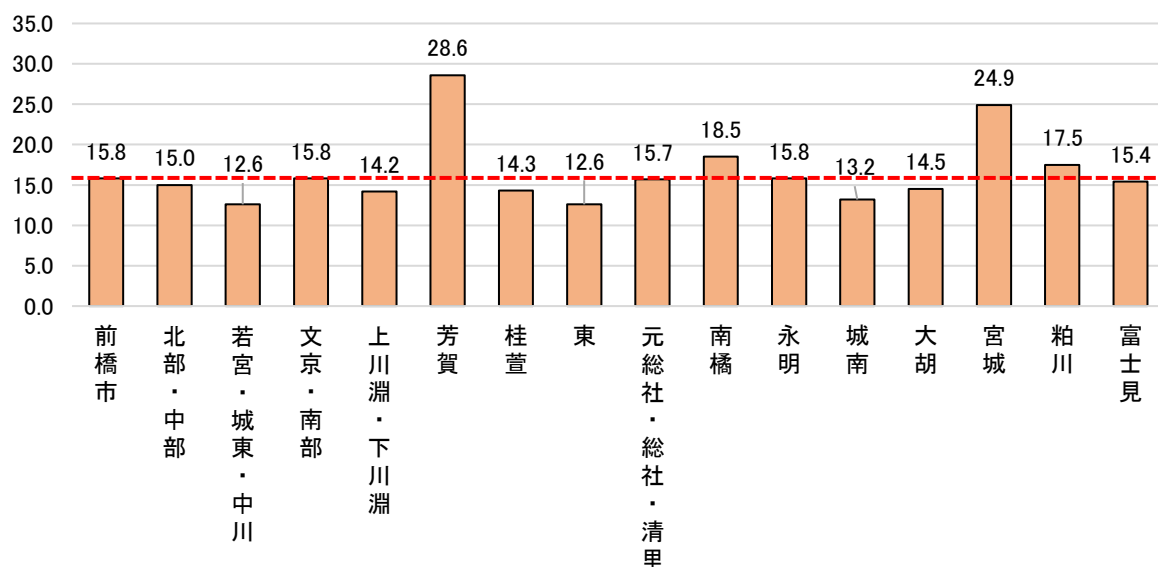
※転倒リスク高齢者の割合は、「過去1年間に転んだ経験があるか」の設問に対し、「何度もある」又は「1度ある」を選択した回答数より作成。

③閉じこもりリスク

全体では、約16%の人が外出の機会が少なく、閉じこもりリスクを抱えています。前回調査(令和4年度)と比べ、割合は1ポイント減少(改善)しましたが、依然として、事業対象者、要支援者は、一般高齢者と比べ週5回以上外出する人の割合が大幅に少ない状況です。

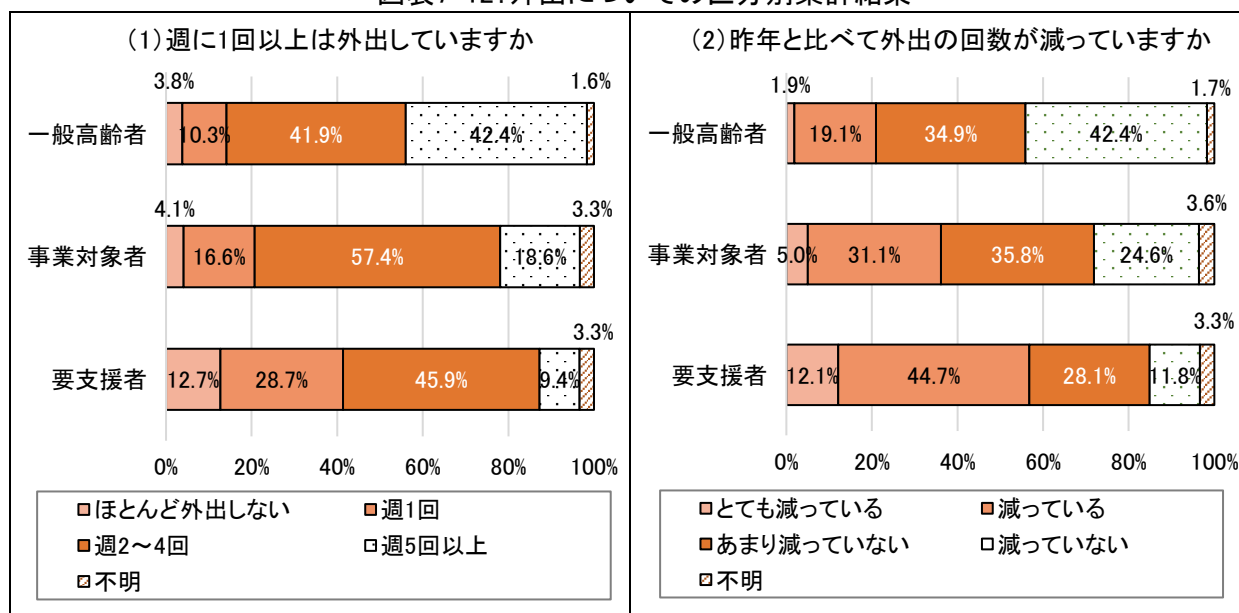
圏域別に見ると、芳賀地区、宮城地区は閉じこもりリスクを抱えている人の割合が特に多くなっています。一方で、若宮・城東・中川、東地区は割合が少なくなっており、13%を下回っています。

図表7-11: 閉じこもりリスク高齢者の割合(%)



※閉じこもりリスク高齢者の割合は、下記の表「(1) 週に1回以上は外出していますか」から「週1回」又は「ほとんど外出しない」を選択した回答数より作成。

図表7-12: 外出についての区分別集計結果



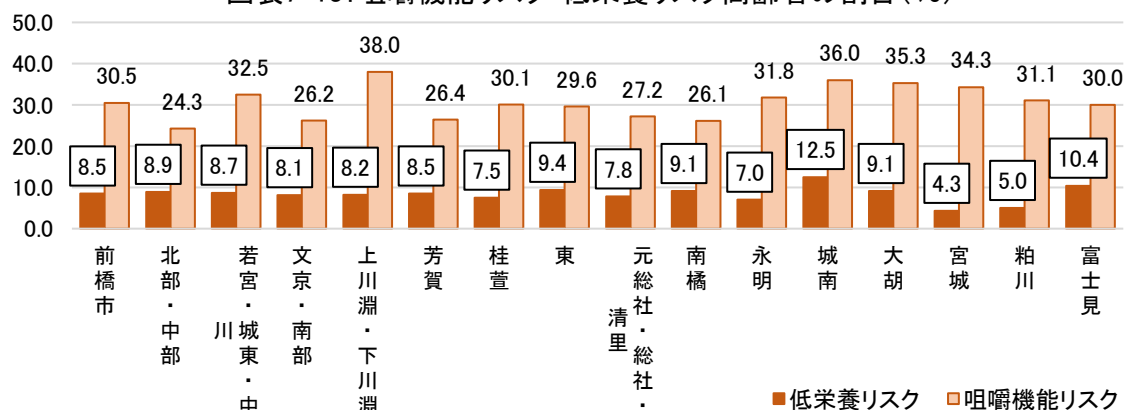
(3) 食事について

①咀嚼機能リスク・低栄養リスク

咀嚼機能については、全体で30.5%の人が半年前に比べて固いものが食べにくくなったと感じています。前回調査(令和4年度)と比べ、1.8ポイント減少(改善)しました。圏域別では、上川淵・下川淵、城南、大胡、宮城地区の咀嚼機能リスクが高く、一方で北部・中部、文京・南部、南橋地区では低くなっています。

低栄養リスクを抱える人の割合は、全体で8.5%となっており、前回調査(令和4年度)と比べ、1.1ポイント増加しました。城南地区が最も高く約13%になっています。一方で、宮城地区は低栄養リスクを抱える人の割合が最も低く約4%でした。

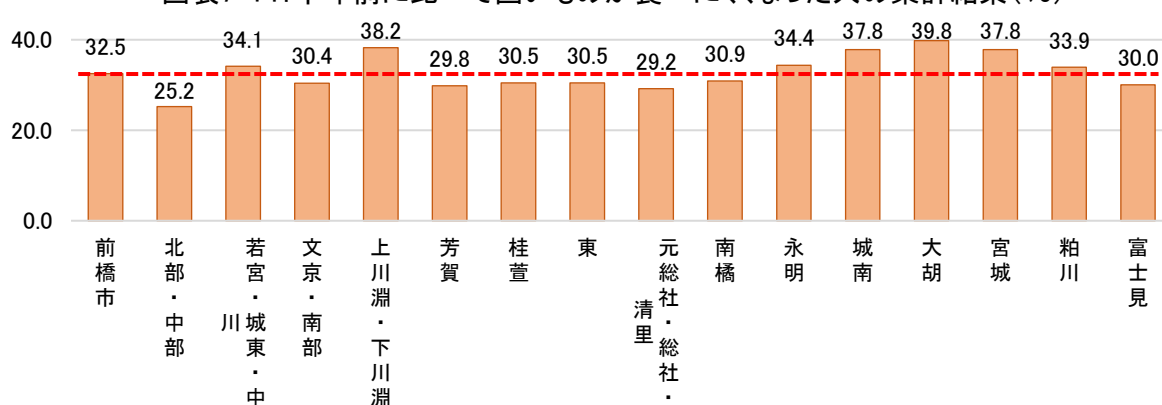
図表7-13:咀嚼機能リスク・低栄養リスク高齢者の割合(%)



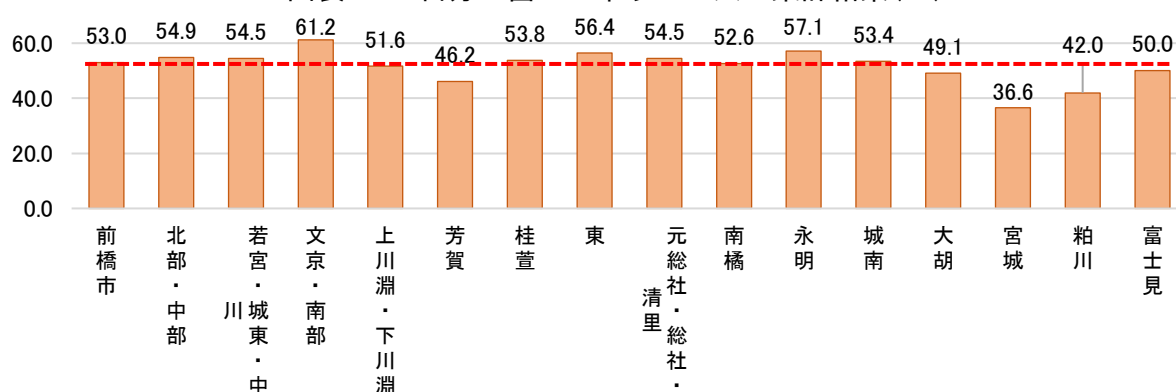
※咀嚼リスク高齢者の割合は、下表7-14で「はい」を選択した回答数より作成。

※低栄養リスク高齢者はBMIが18.5未満の高齢者数より作成。 BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) × 身長(m)

図表7-14:半年前に比べて固いものが食べにくくなった人の集計結果(%)



図表7-15:自分の歯が20本以上の人の集計結果(%)



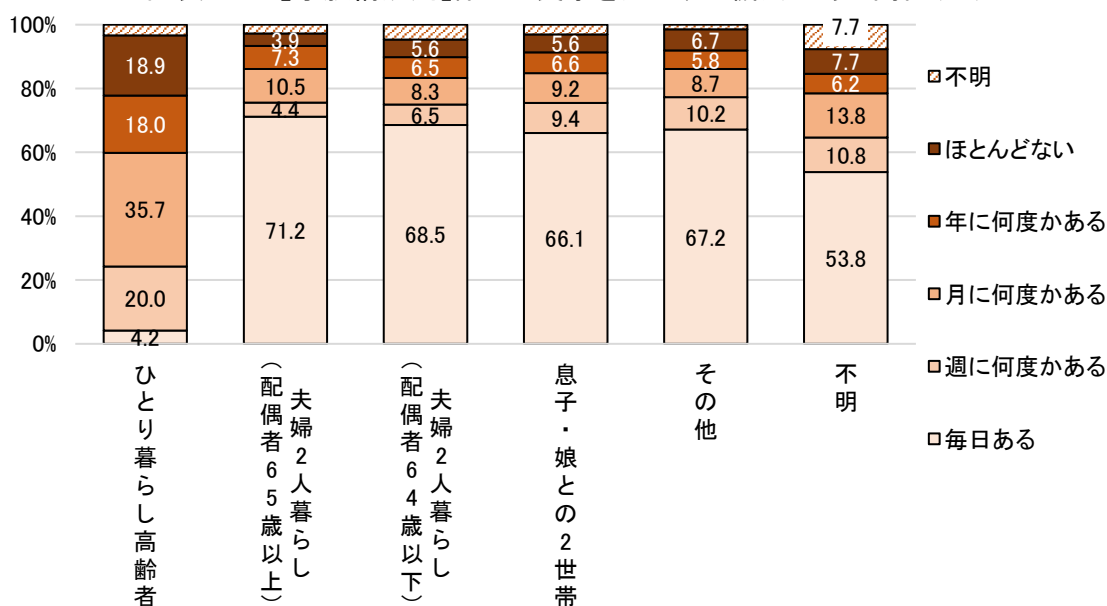
②孤食の状況

全体では、毎日誰かと食事を共にする機会がある人の割合は53.2%となっており、前回調査（令和4年度）と比べ、1.1ポイント減少しました。

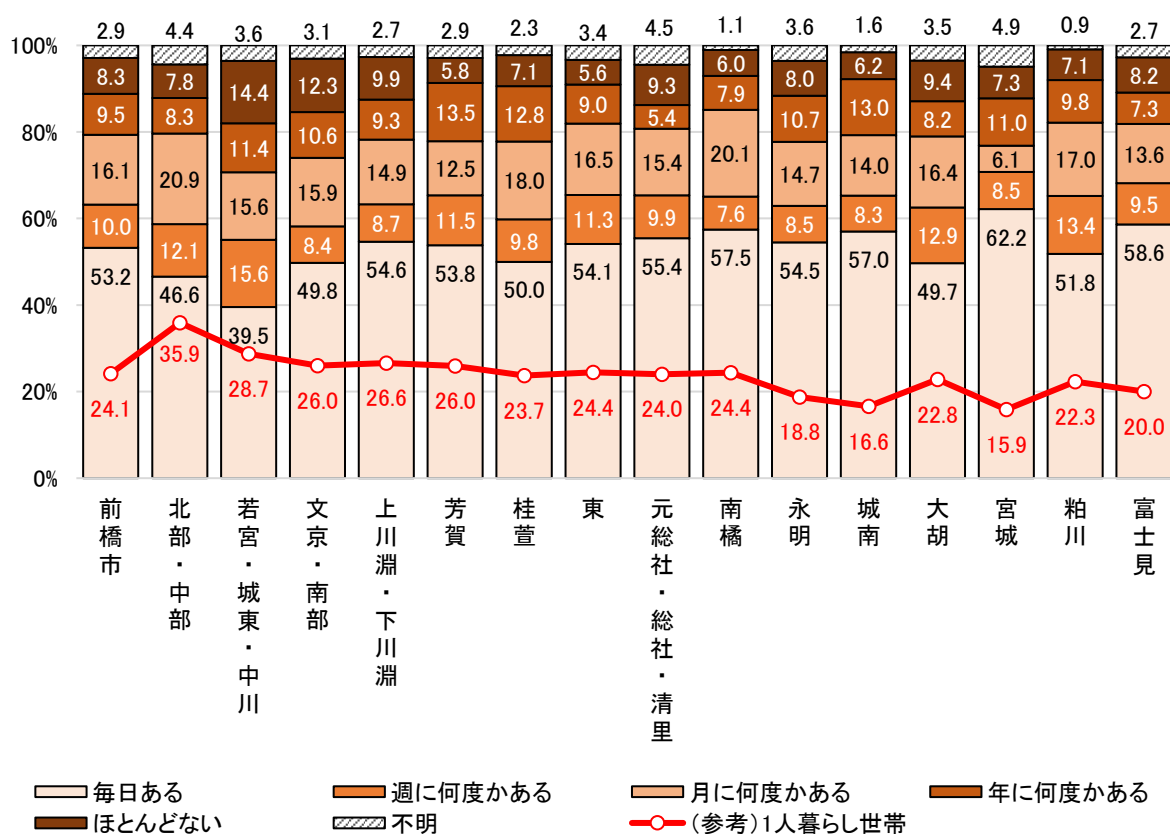
家族構成別に見ると、ひとり暮らし高齢者は他の家族構成に比べて、毎日食事を共にする割合が極端に低くなっています。

圏域別に見ると、月に一回以上、誰かと食事を共にする機会がある人の割合は、南橘地区が最も高く、約85%でした。ひとり暮らし高齢者の多い北部・中部や若宮・城東・中川地区は、他の圏域と比較して毎日誰かと食事をする人の割合が低くなっています。

図表7-16:【家族構成別】誰かと食事を共にする機会がある割合(%)



図表7-17:【圏域別】誰かと食事を共にする機会がある割合(%)



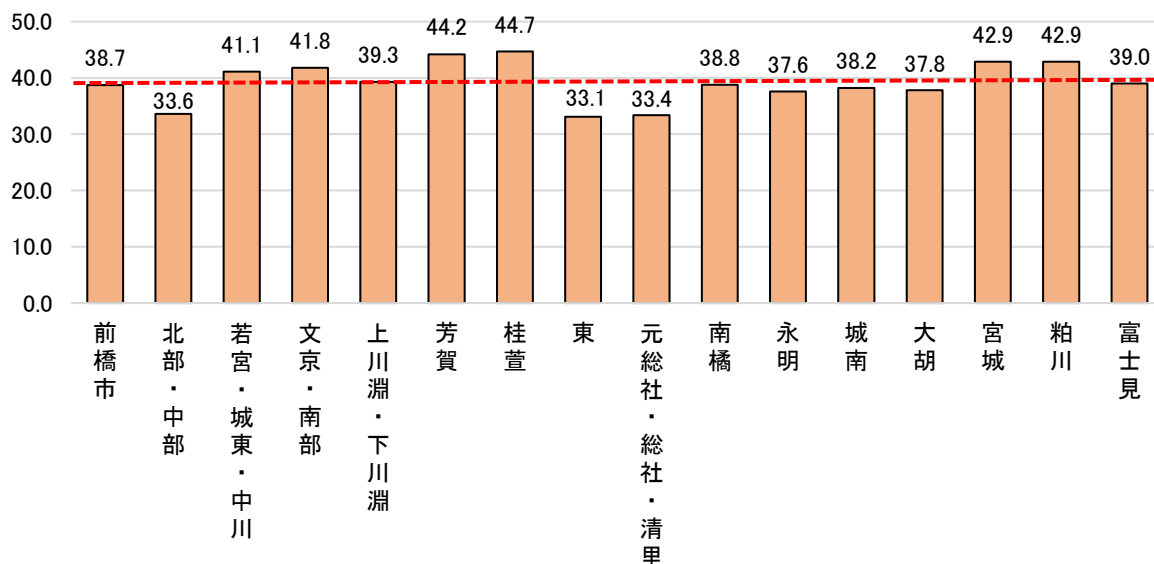
(4) 日常生活について

①認知機能について

一般高齢者では37.3%(5.8ポイント減少(改善))、事業対象者では49.4%(8.1ポイント減少(改善))、要支援者になると55.9%(3.2ポイント減少(改善))の人が、物忘れが多いと感じています。※()内は前回調査(令和4年度)との割合の差を表しています。

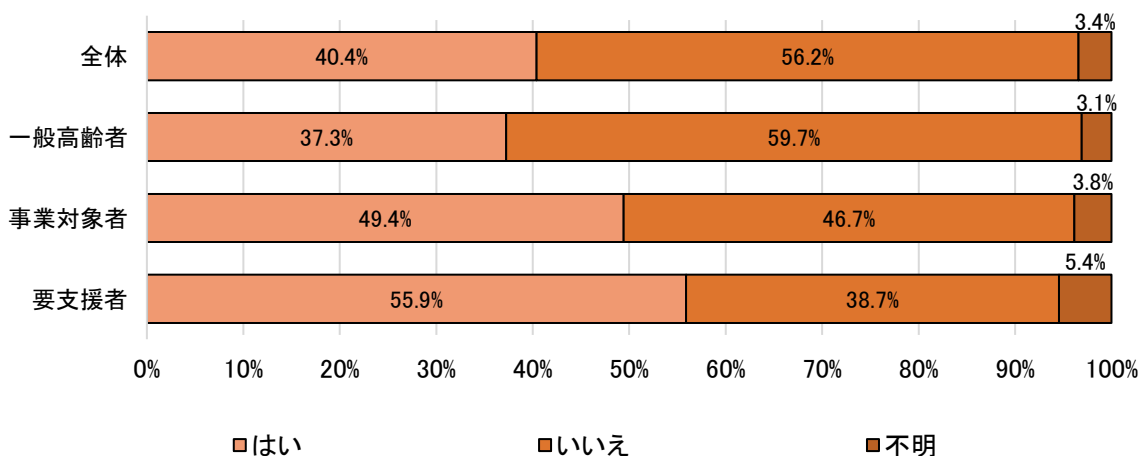
圏域別に見ると、桂萱地区では認知機能に不安のある人の割合が最も高く、次いで芳賀地区の割合が高くなっています。反対に、東地区は認知機能の不安がある人の割合が最も低くなっています。

図表7-18認知症リスク高齢者の割合(%)



※認知症リスク高齢者の割合は、図表7-19で「はい」を選択した回答数より作成。

図表7-19:「物忘れが多いと感じるか」の集計結果



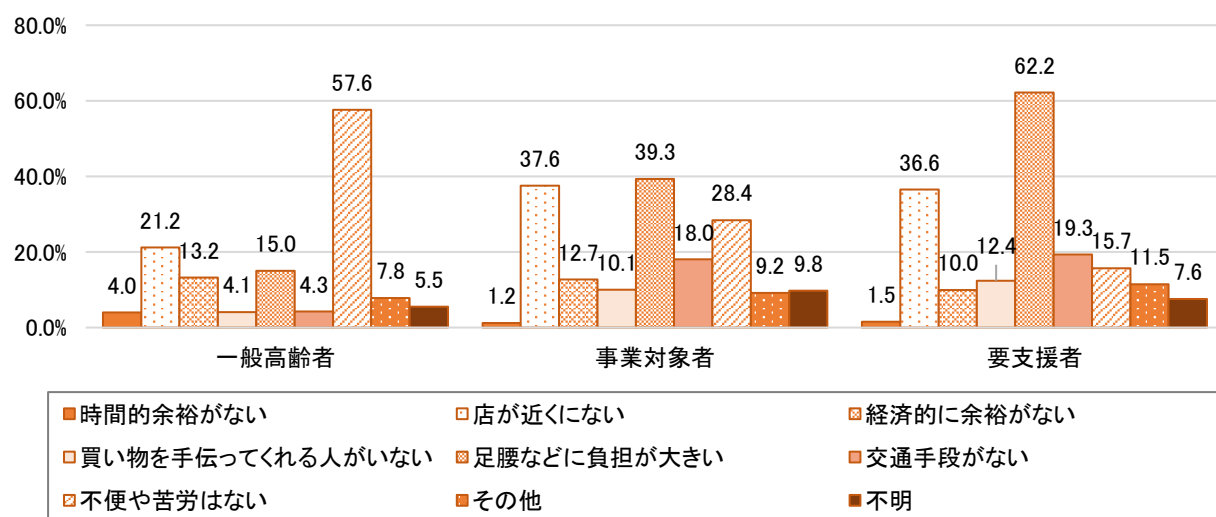
②買い物について

食料品の買い物において、一般高齢者は半数以上が不便や苦勞はないと回答していますが、事業対象者、要支援者では、店が近くにならないことや足腰などへの負担に不便や苦勞を感じている人の割合が高くなっています。

買い物サービスの利用状況については、全体の約70%の人が利用しているものはないと回答しています。食材の宅配サービスを利用している人の割合は、全体の約15%となっています。

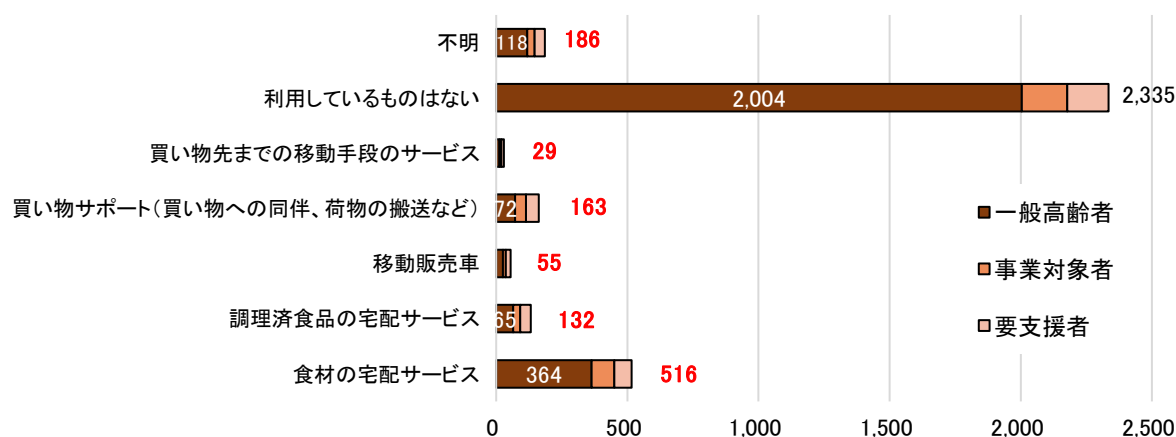
図表7-20

「食料品の買い物において、どのような不便や苦勞がありますか(上位3つまで)」の集計結果(%)



図表7-21

「買い物サービスについて利用しているものがありますか(いくつでも)」の集計結果(人)



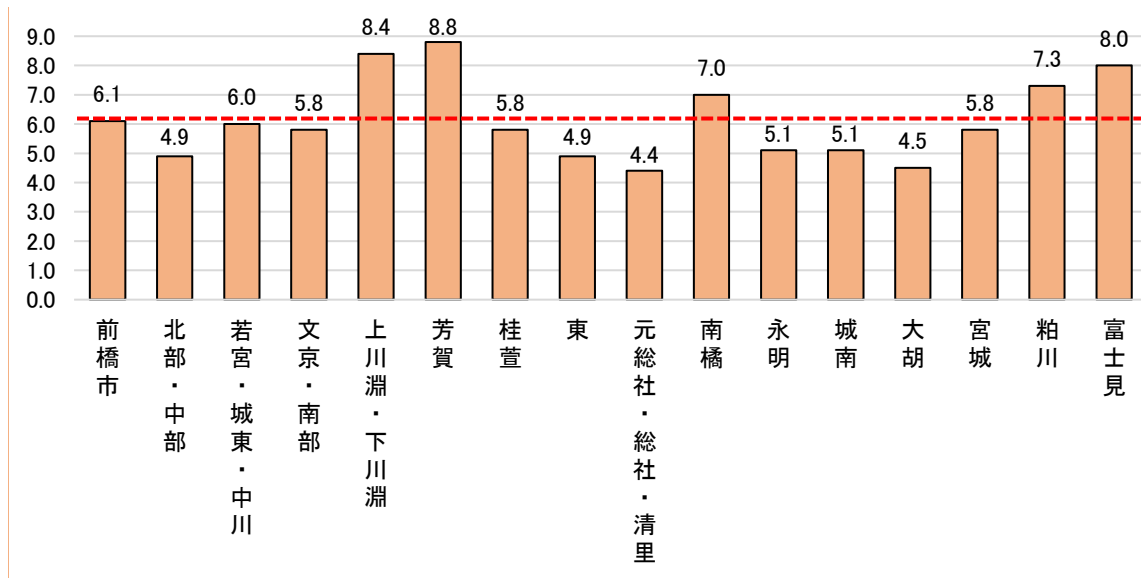
(5) IADL(手段的日常生活動作能力)について

全体ではIADLの低下がみられる人の割合は6.1%となっており、前回調査(令和4年度)と比べ大きな変化はありませんでした。

圏域別に見ると、上川淵・下川淵、芳賀、富士見地区はIADLが低い人の割合が多くなっています。

図表7-23において、前回調査(令和4年度)と比べ、買い物や食事の用意、金銭管理は「できる」と回答した人の割合は増加しましたが、1人での外出について「できる」と回答した一般高齢者の割合は3.9ポイント減少しました。

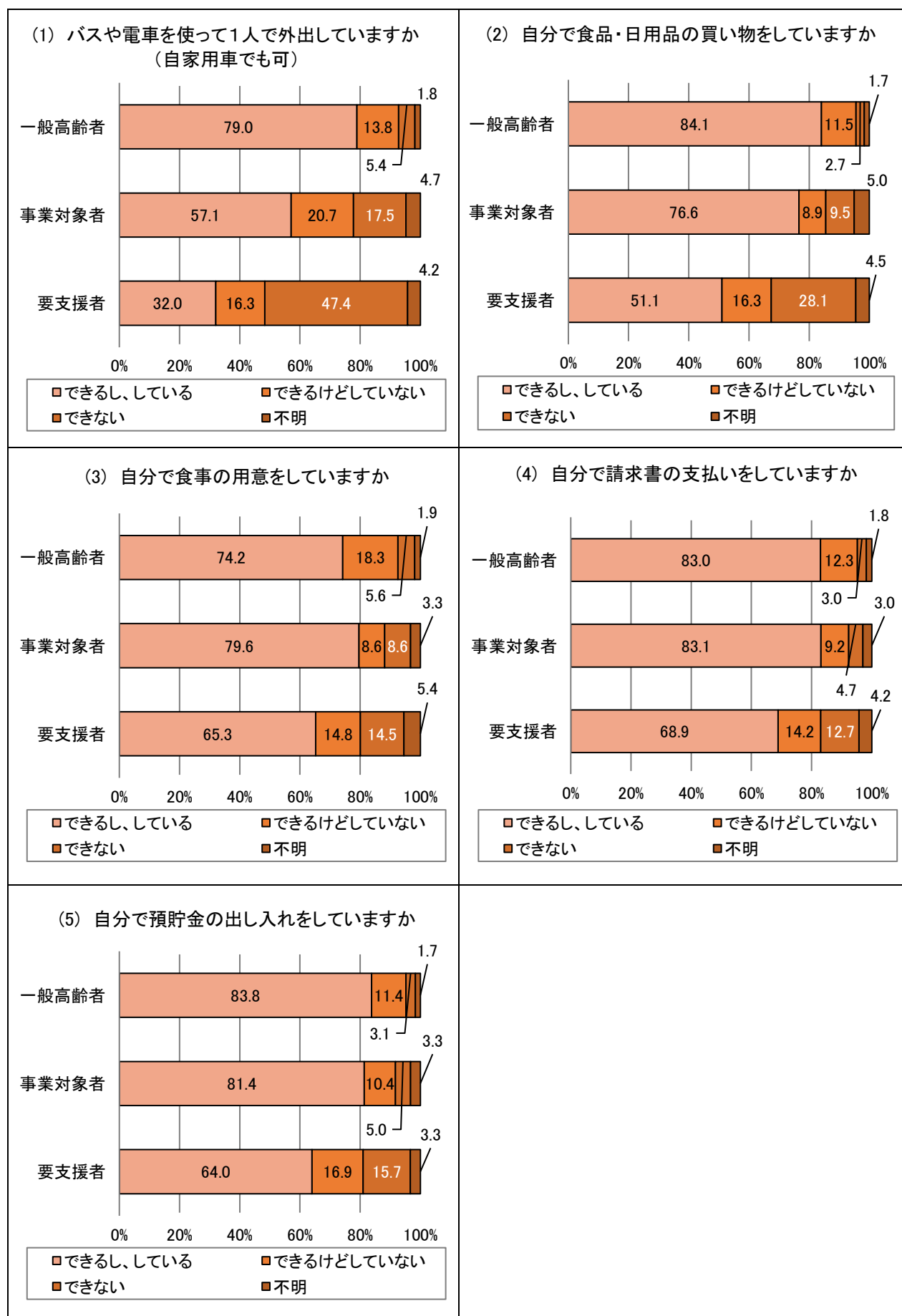
図表7-22:IADLが低い高齢者の割合(%)



※IADLが低い高齢者の割合は、図表7-23の項目において、下表から色付きの項目を3つ以上選択した回答数から作成。

	設問内容	回答	
1	バスや電車を使って一人で外出していますか	「できるし、している」	「できるけどしていない」 又は「できない」
2	自分で食品・日用品の買物をしていますか (自家用車でも可)	「できるし、している」	「できるけどしていない」 又は「できない」
3	自分で食事の用意をしていますか	「できるし、している」	「できるけどしていない」 又は「できない」
4	自分で請求書の支払いをしていますか	「できるし、している」	「できるけどしていない」 又は「できない」
5	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「できるし、している」	「できるけどしていない」 又は「できない」

図表7-23:IADL(手段的日常生活動作能力)についての区分別集計結果



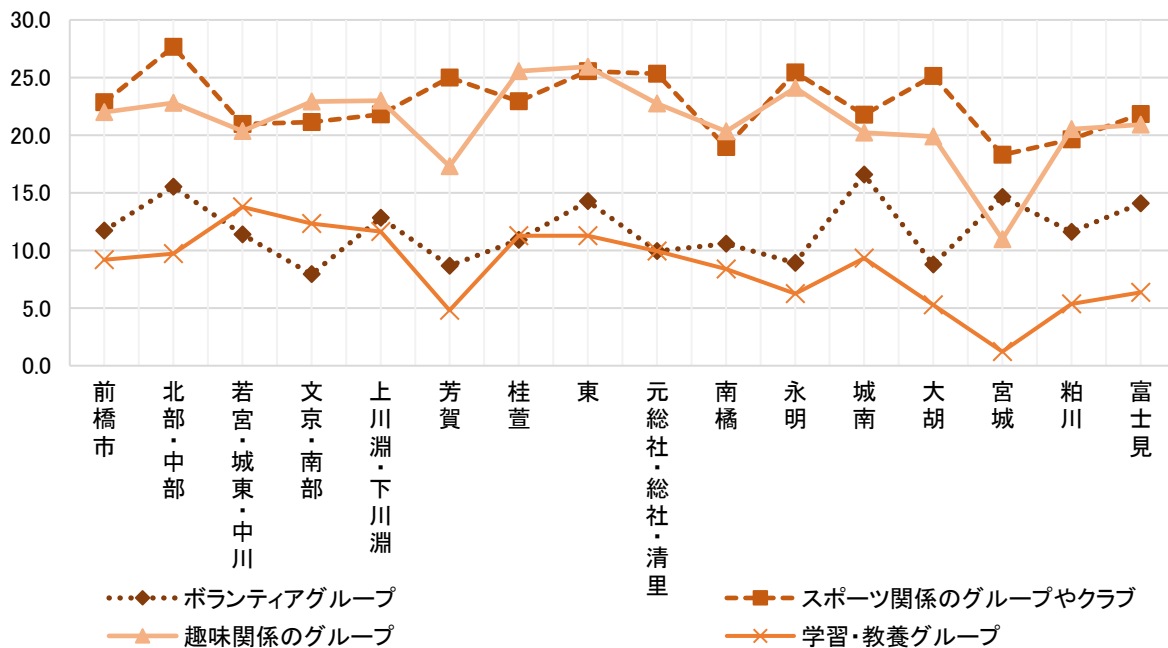
(6) 地域での活動について

①グループ等への参加状況

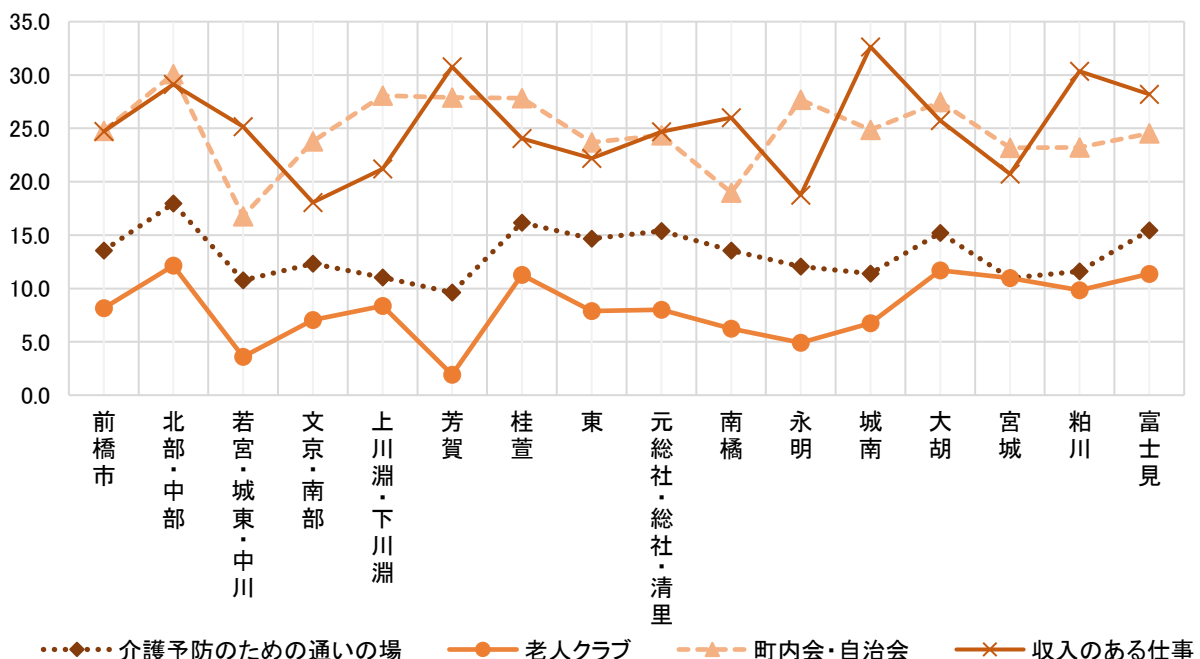
図表7-24を見ると、スポーツや趣味のグループには5人に1人が参加している一方、ボランティア、学習・教養のグループへの参加は低い傾向にあります。また、図表7-25では、町内会・自治会及び収入のある仕事を行う人の割合が比較的に多くなっています。また、通いの場の参加者の割合は老人クラブより多い傾向です。前回調査(令和4年度)と比べ、傾向に変化はみられないものの、収入のある仕事に取り組む人の割合が3.1ポイント増加しました。

圏域別に見ると、北部・中部地区は地域でさまざまな活動に参加している高齢者の割合が多くなっています。また、桂萱、東地区は趣味関係のグループが多く、城南地区は収入のある仕事に取り組む人の割合が多くなっています。

図表7-24: 地域での活動に参加している高齢者の割合(%)



図表7-25: 地域での活動に参加している高齢者の割合(%)

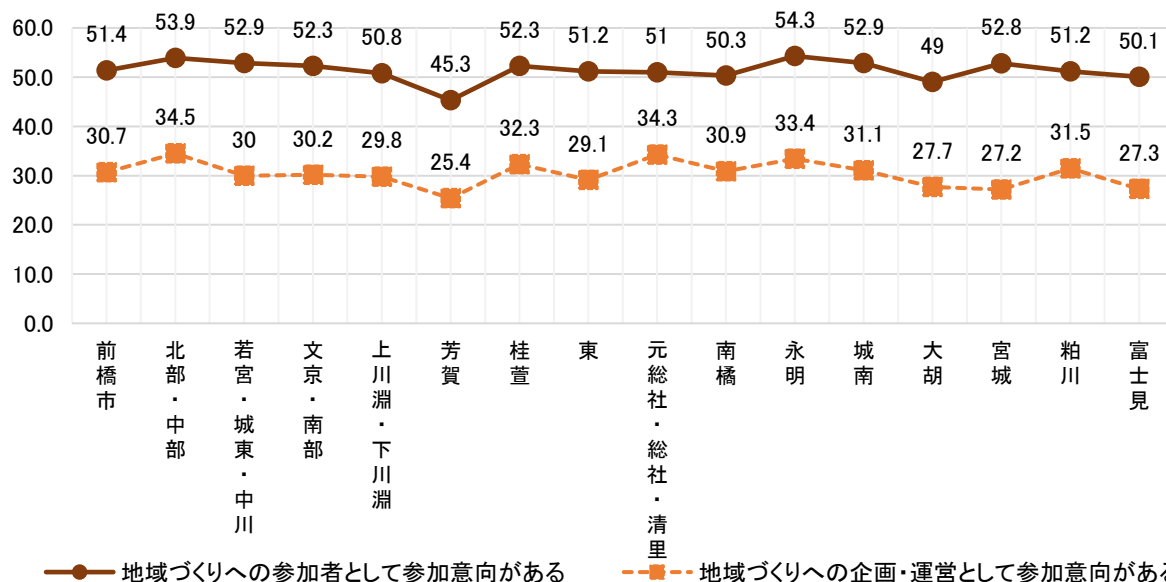


②地域づくりへの参加意向

地域づくり活動へ参加者として参加意向のある人は全体で50%を超えています。企画・運営として参加意向のある人は約30%となっています。前回調査(令和4年度)と比べ、参加者としての参加意向は2.2ポイント減少し、企画・運営としての参加意向は6.4ポイント減少しました。

圏域別に見ると、北部・中部、桂萱、永明地区は参加者としても企画・運営としても参加してもよいと考える人が多いことが分かりました。一方、宮城地区は参加者としての参加意向はあるものの、企画・運営への参加意向は低い傾向が見られます。

図表7-26: 地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合(%)

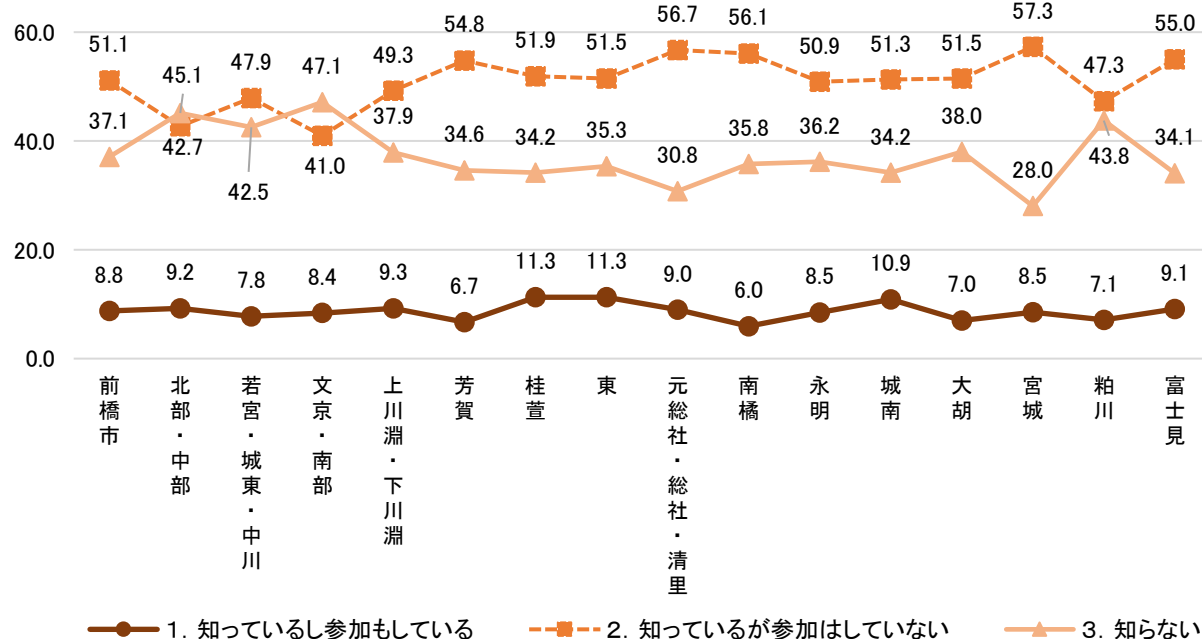


※地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合は、地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等の活動に対する参加意向を問う設問にて、「是非参加したい」「参加してもよい」を選択した回答数より作成。

③介護予防・生活支援の活動の認知度

地域で行われている介護予防や生活支援の活動の認知度は全体で約60%となっており、そのうち参加している人の割合はわずか8.8%にとどまっています。

図表7-27: 地域における介護予防や生活支援の活動の認知度と参加状況の集計結果(%)



(7) たすけあいについて

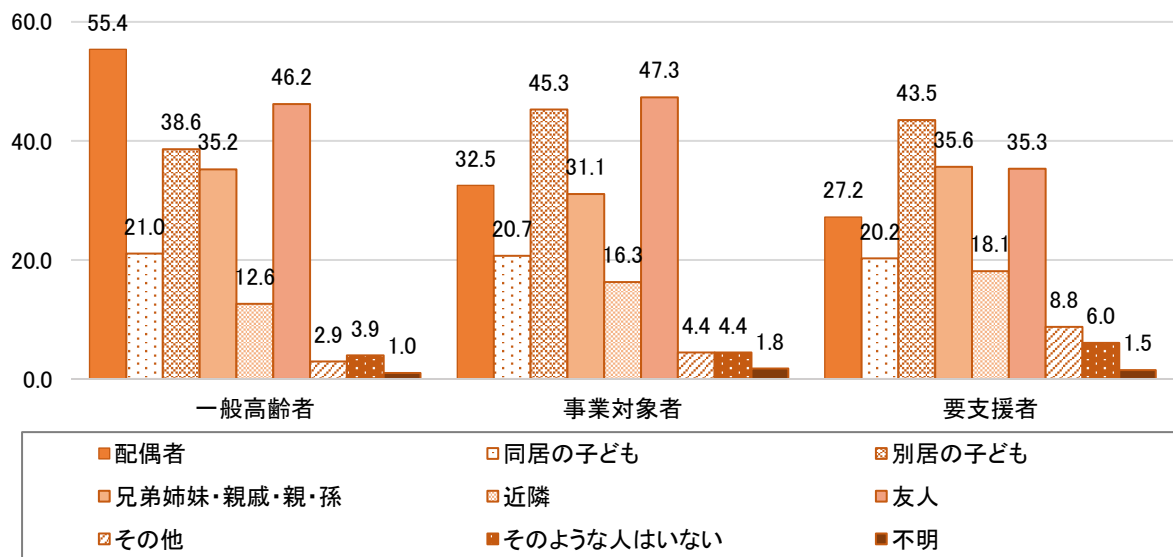
①情緒的サポート

一般高齢者は配偶者や友人がサポート役になる割合が多くなっています。一方、事業対象者・要支援者では、配偶者がサポート役になる割合が一般高齢者の半分程度になっています。

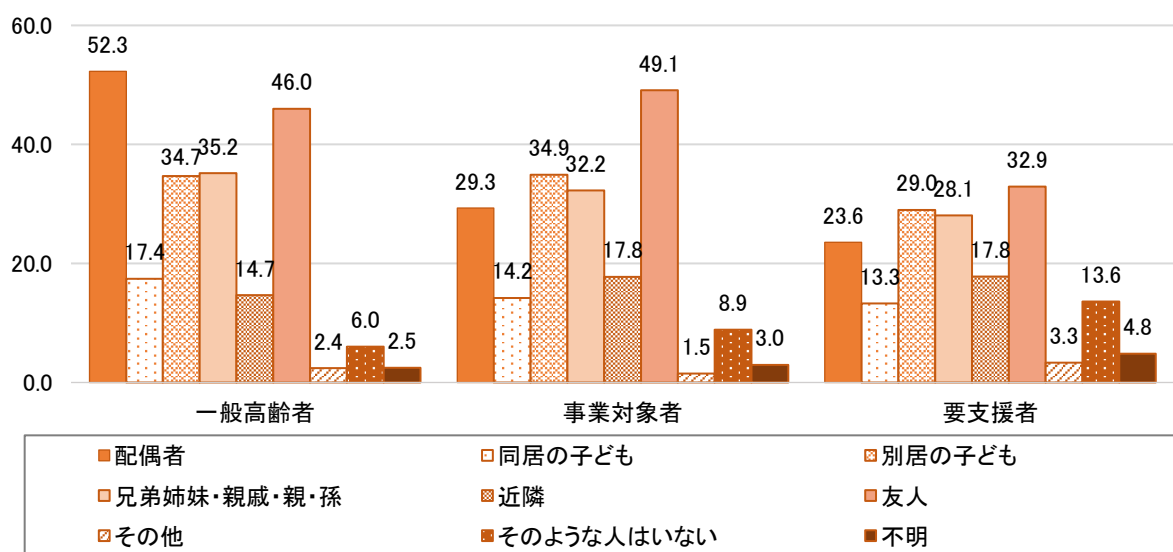
また、心配事や愚痴を聞いてあげる人は、要支援者・事業対象者ともに、一般高齢者と比べ「そのような人はいない」と回答する人の割合が多くなっています。

前回調査(令和4年度)と比べると、サポート役は変化が見られませんでした。心配事や愚痴を聞いてくれる人の割合は減少しています。

図表7-28
心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人の割合(%)



図表7-29
心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人の割合(%)

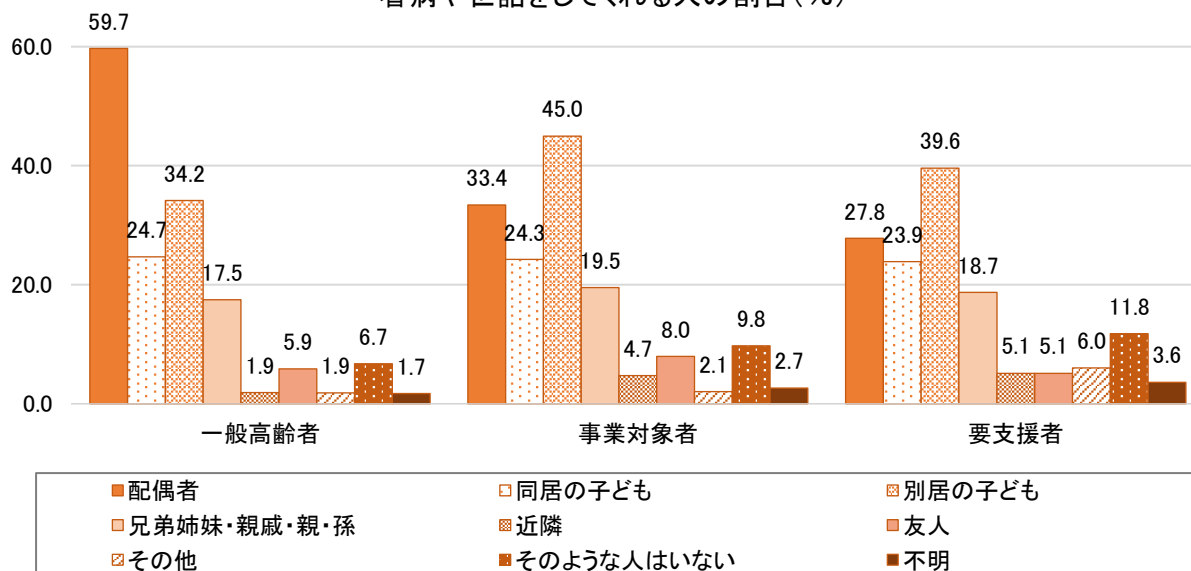


② 手段的サポート

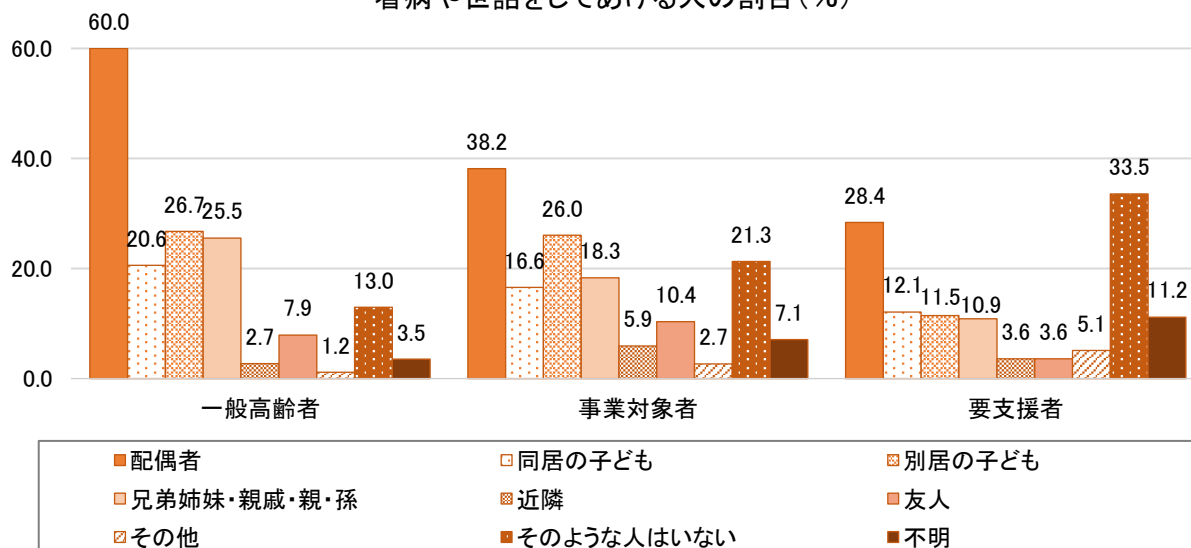
一般高齢者は配偶者や子どもがサポート役になる割合が多くなっています。一方で、事業対象者・要支援者になると、子どもがサポート役になる割合が多くなっています。

前回調査(令和4年度)と比べると、サポート役は変化が見られませんでした。看病や世話をしてくれる人の割合は減少しています。

図表7-30
看病や世話をしてくれる人の割合(%)



図表7-31
看病や世話をしあげる人の割合(%)

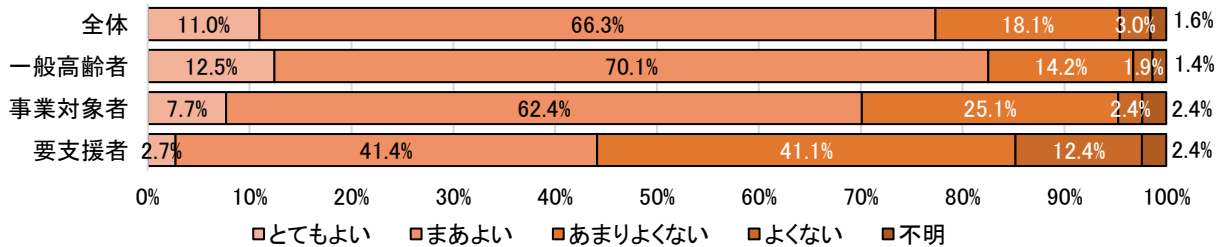


(8) 心身の健康について

①主観的健康観

全体では77.3%の人が主観的に健康と感じており、前回調査(令和4年度)と比べ3.3ポイント増加しました。一般高齢者、事業対象者は約80%の人が主観的に健康と感じているのに対して、要支援者は約45%にとどまります。

図表7-32: 現在の健康状態(%)

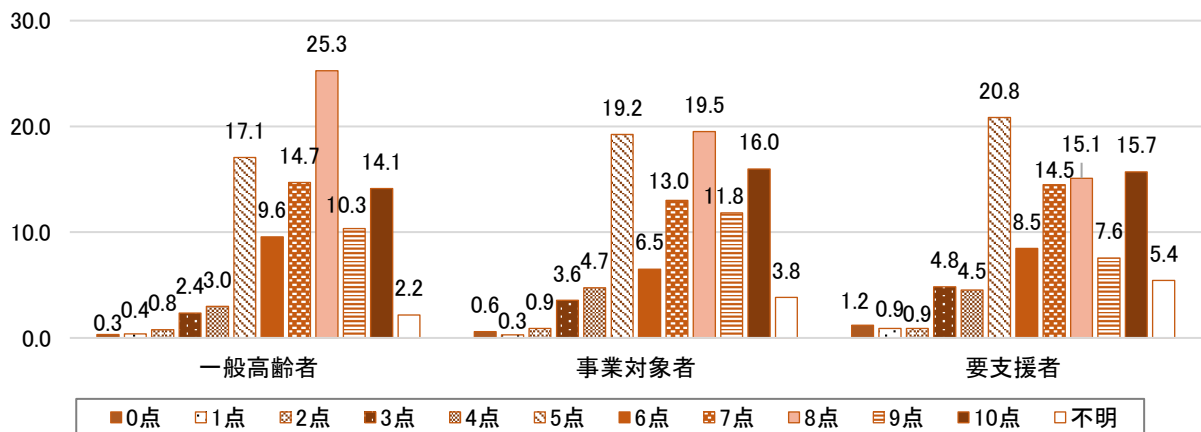


②主観的幸福感

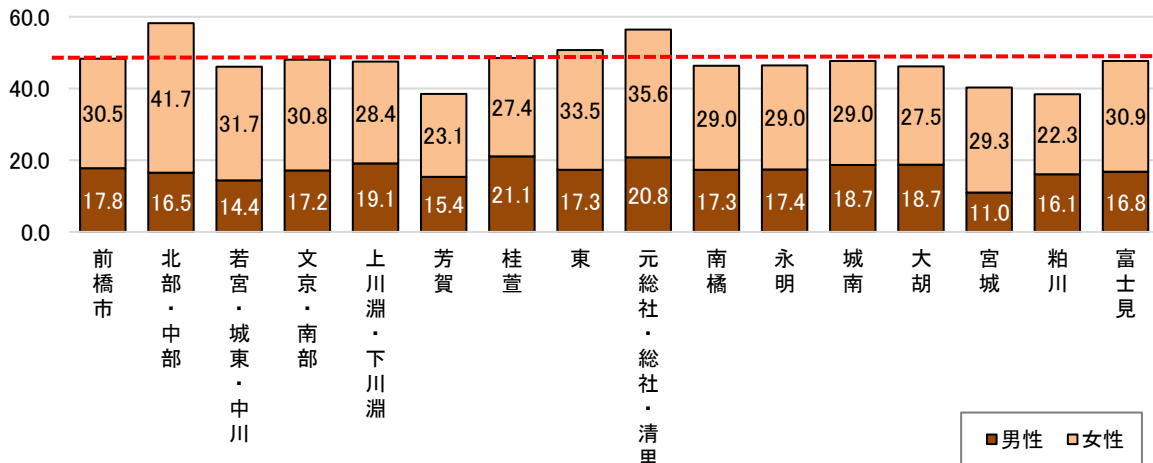
全体では前回調査(令和4年度)と比べ、8点以上を選択した人の割合に大きな変化は見られませんでしたが、事業対象者、要支援者において9点以上を選択した人の割合が増加しました。

圏域別に見ると、全体のうち半数近くの人が8点以上と回答していますが、芳賀、宮城、粕川地区は、他の地区に比べて低い割合となっています。

図表7-33: 主観的幸福感の分布(10点評価)(%)



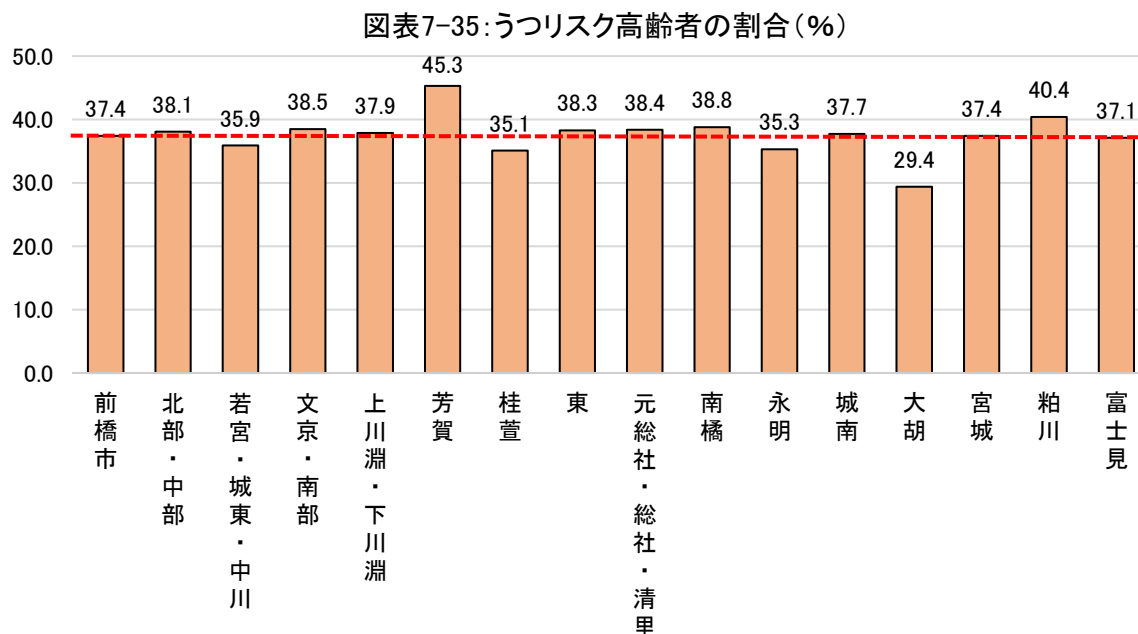
図表7-34: 主観的幸福感の高い(8点以上)高齢者の割合(%)



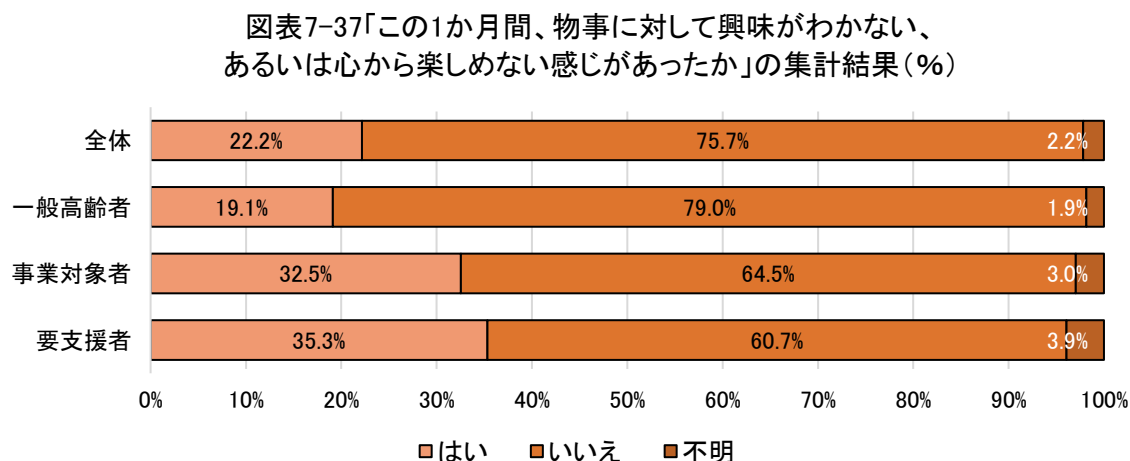
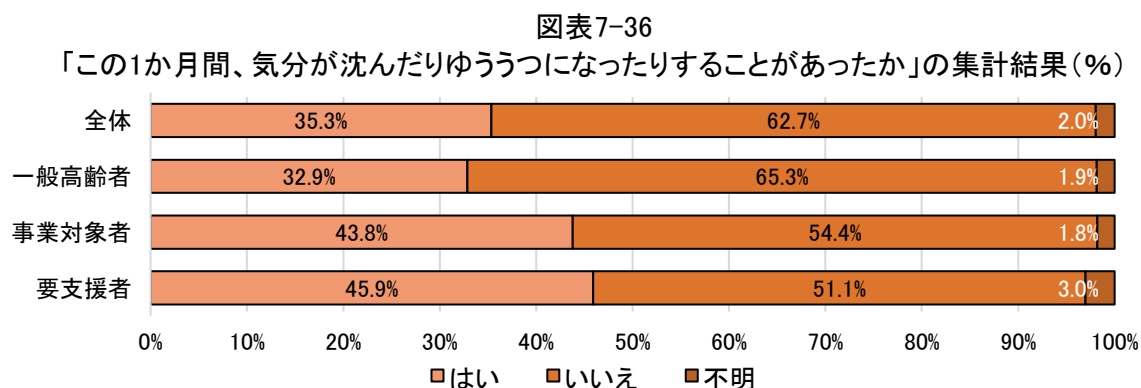
③うつリスク

全体ではうつリスクを抱える人の割合は37.4%となっており、前回調査（令和4年度）と比べ、5.4ポイント減少（改善）しました。

圏域別に見ると、大胡地区は比較的风险が低くなっていますが、どの圏域でも40%前後という割合となっています。



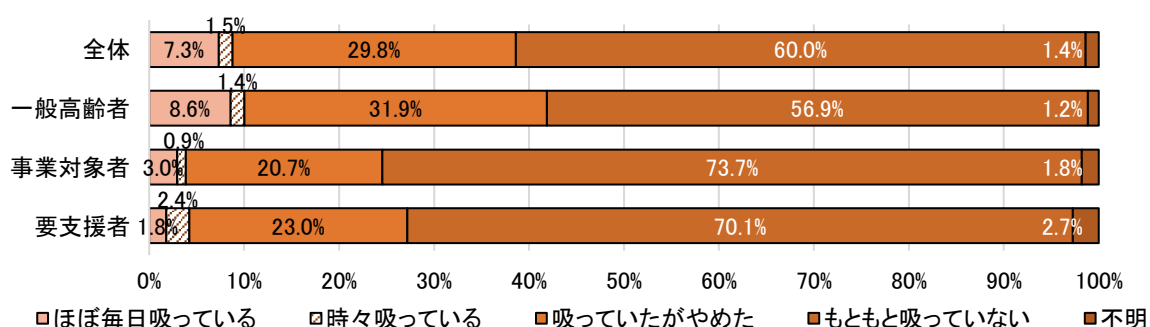
※うつリスク高齢者の割合は、図表7-36、7-37のいずれかの設問に「はい」を選択した回答数より作成。



④タバコ

全体ではほぼ毎日喫煙している人の割合は7.3%となっており、前回調査(令和4年度)と比べ、**0.6ポイント**増加しました。一般高齢者と比べ、事業対象者・要支援者の喫煙率は半分程度となっています。

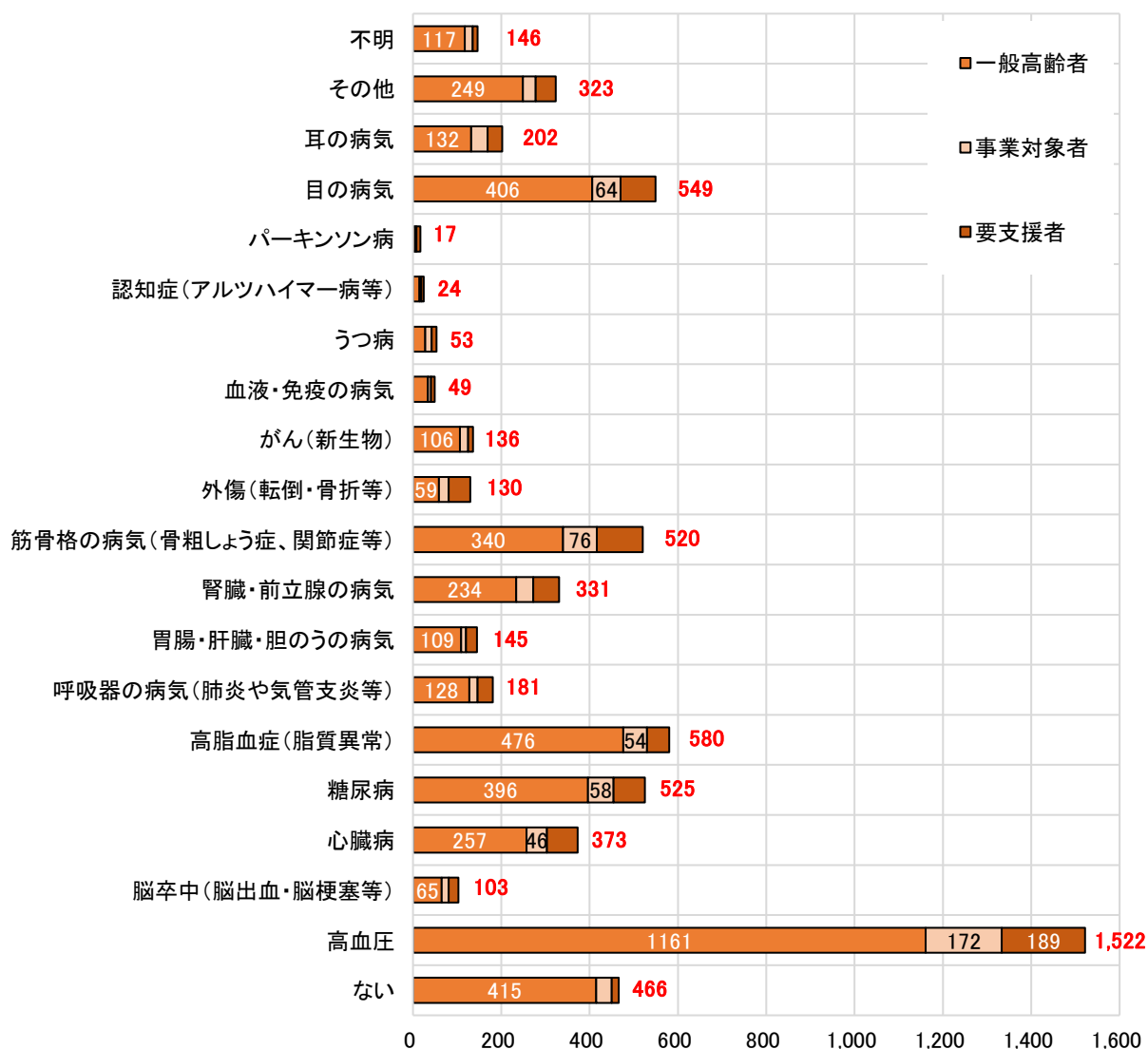
図表7-38:「タバコを吸っているか」の集計結果(%)



⑤病気

現在治療中の病気のある人は全体の81.2%で、前回調査(令和4年度)と比べ、大きな変化はありませんでした。高血圧が最も多く、全体の46.8%の回答がありました。病気の種類は要支援等の認定の状況で大きな傾向の差はありませんでした。

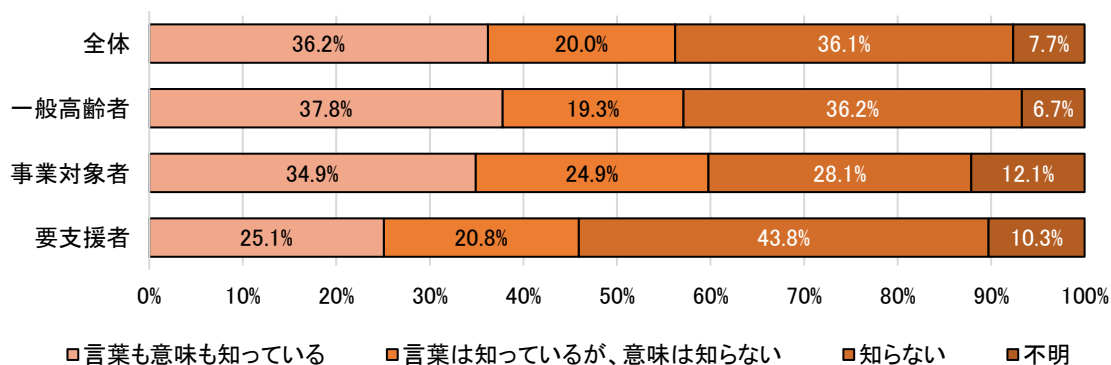
図表7-39:「現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(いくつでも)」の集計結果(人)



③フレイルの認知度

全体では36.2%の人がフレイルの意味も含めて知っており、前回調査(令和4年度)と比べ、10.3ポイントの増加となっています。また、約60%の事業対象者は言葉としてフレイルを知っていることから、関心の高いことが伺えます。

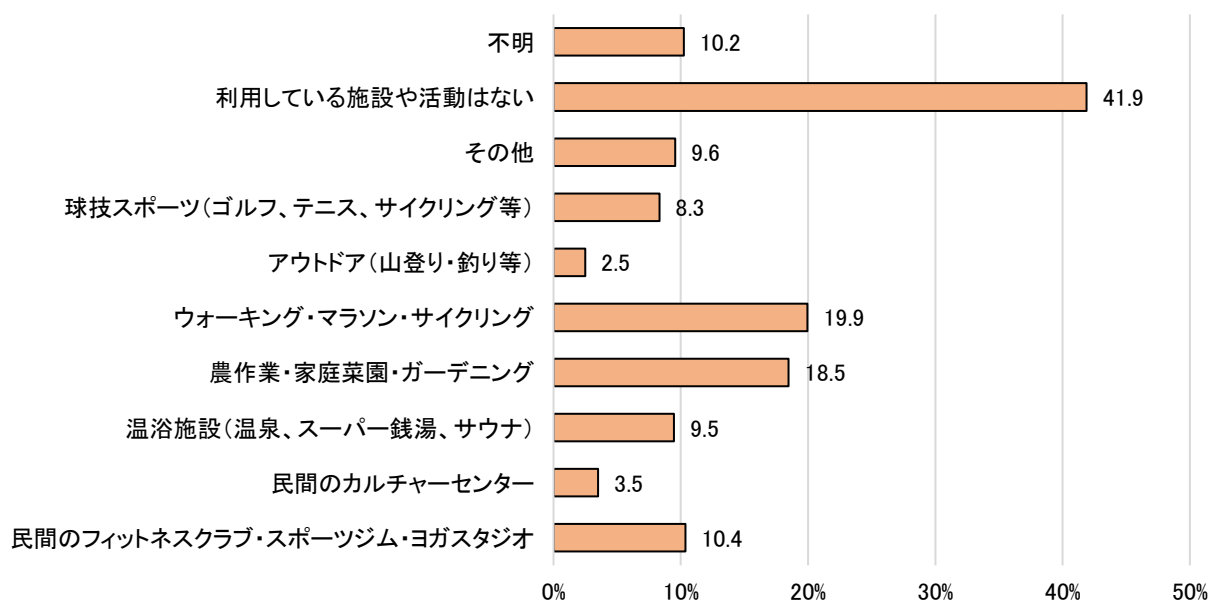
図表7-40:「フレイル」という言葉を知っている割合(%)



④健康維持

健康維持のために利用している施設や活動としては、ウォーキング・マラソン・サイクリングや農作業・家庭菜園・ガーデニングの割合が約20%となっており、頻度として約80%の人が週1回以上行っていると回答しています。

図表7-41:「健康維持のために利用している施設や活動(いくつでも)」の集計結果(%)

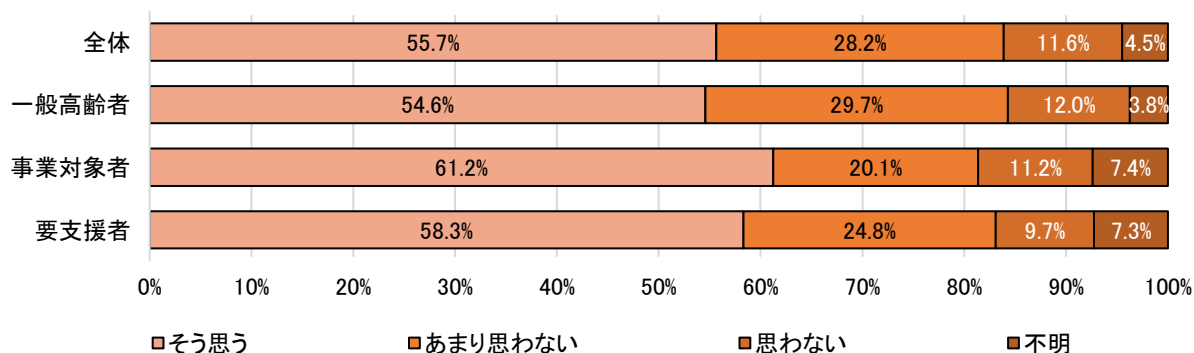


(9) 在宅医療・人生の最期について

①在宅医療

通院が困難な状態になった場合、在宅医療を受けたい人の割合は全体で55.7%となっており、前回調査(令和4年度)と比べ、3.7ポイント減少しました。一般高齢者においては、在宅以外で医療を受けることを望む人は40%以上いることが分かりました。

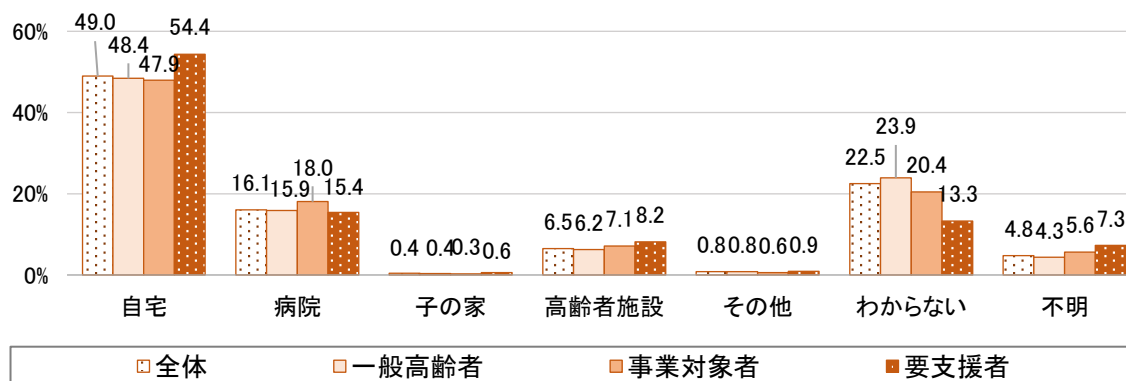
図表7-42: 通院が困難な状態になった場合、在宅医療を受けたい人の割合(%)



②人生の最期

人生の最期をどこで迎えたいかという設問では、どの認定状況の人でも自宅と答えた割合が約50%となっています。前回調査(令和4年度)と比べると、それぞれの区分で自宅が5ポイントほど減少し、高齢者施設の割合が微増しました。また、「わからない」と答えた割合も微増し、一般高齢者・事業対象者で20%を超える結果となりました。

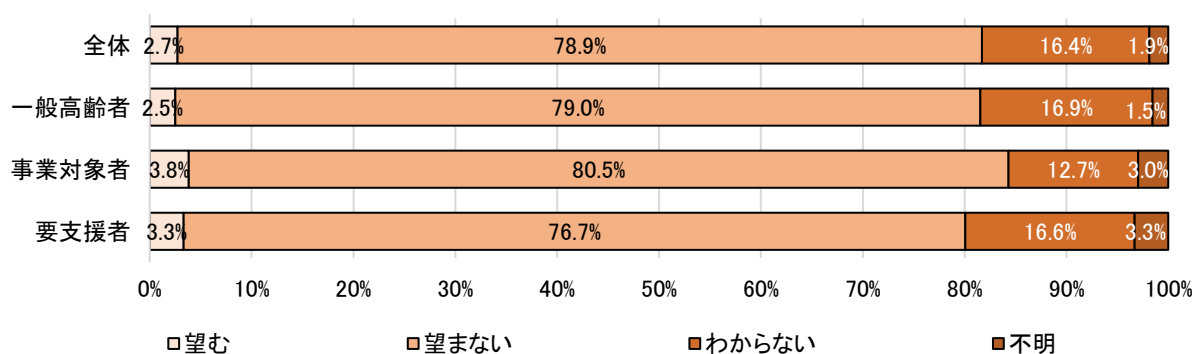
図表7-43: 「あなたは人生の最期をどこで迎えたいですか」の集計結果(%)



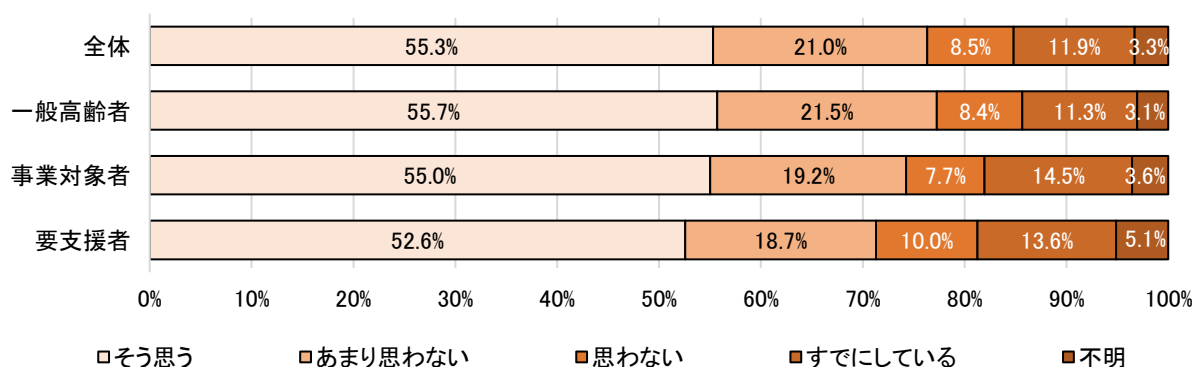
延命治療を望む人は全体で2.7%となっており、前回調査(令和4年度)と比べ2ポイント減少しました。引き続き約80%の人が延命治療を望まないと回答している一方で、わからないと回答した人の割合が2.5ポイント増加しました。

また、人生の最期をどのように迎えるかといった本人の希望を、家族や大切な人と話し合いたいと思う人の割合は、全体で55.3%となっており、前回調査(令和4年度)と比べ、4.1ポイント減少しました。一方で、すでに行っている人は3.4ポイント増加しました。

図表7-44: 人生の最期のときに延命治療を望む人の集計結果(%)



図表7-45: 人生の最期における希望について、家族や大切な人と話し合ったり共有したいと思う人の集計結果(%)

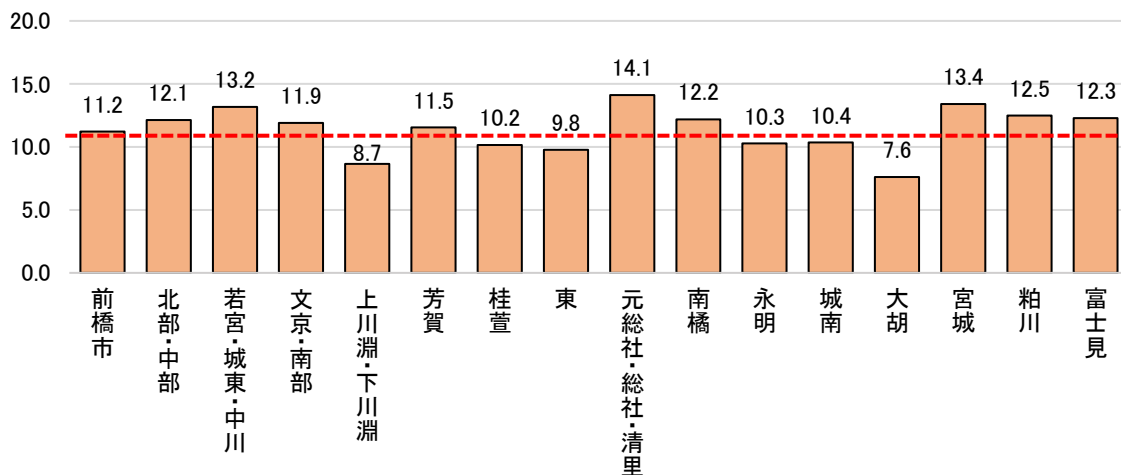


(10) 認知症について

① 認知症の症状

全体の11.2%が本人または家族内に認知症の症状があると回答しており、前回調査（令和4年度）と比べ、1.3ポイント減少しました。圏域別に見ると上川淵・下川淵、大胡地区では、認知症の症状のある人の割合は低く、一方で元総社・総社・清里地区は本人又は家族内に症状のある人がいる割合が高い傾向です。

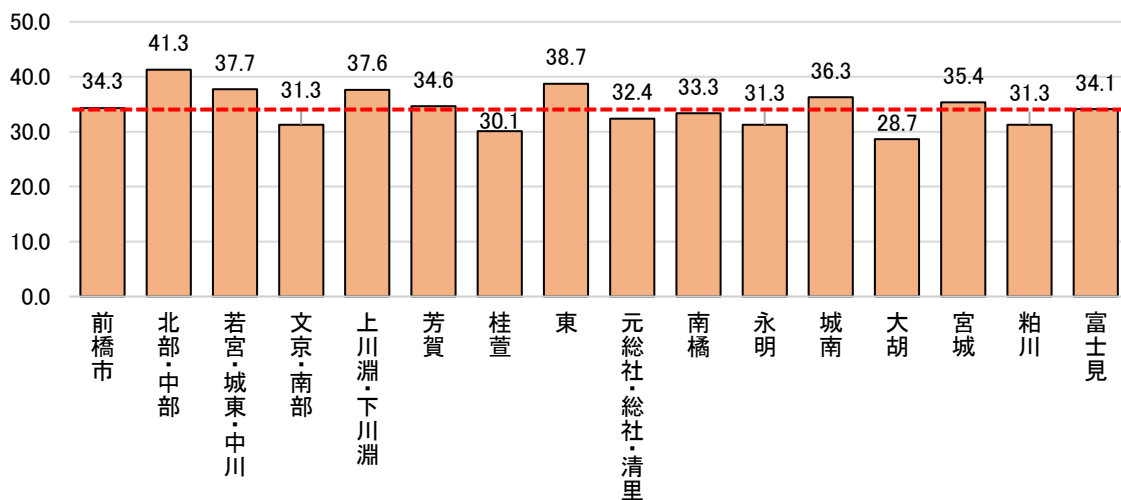
図表7-46: 本人に認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人の割合(%)



② 認知症に関する相談窓口

認知症に関する相談窓口の認知度は34.3%で、前回調査（令和4年度）と比べ、6.1ポイント増加しました。圏域別に見ると大胡地区の認知度が30%を下回る結果となりました。

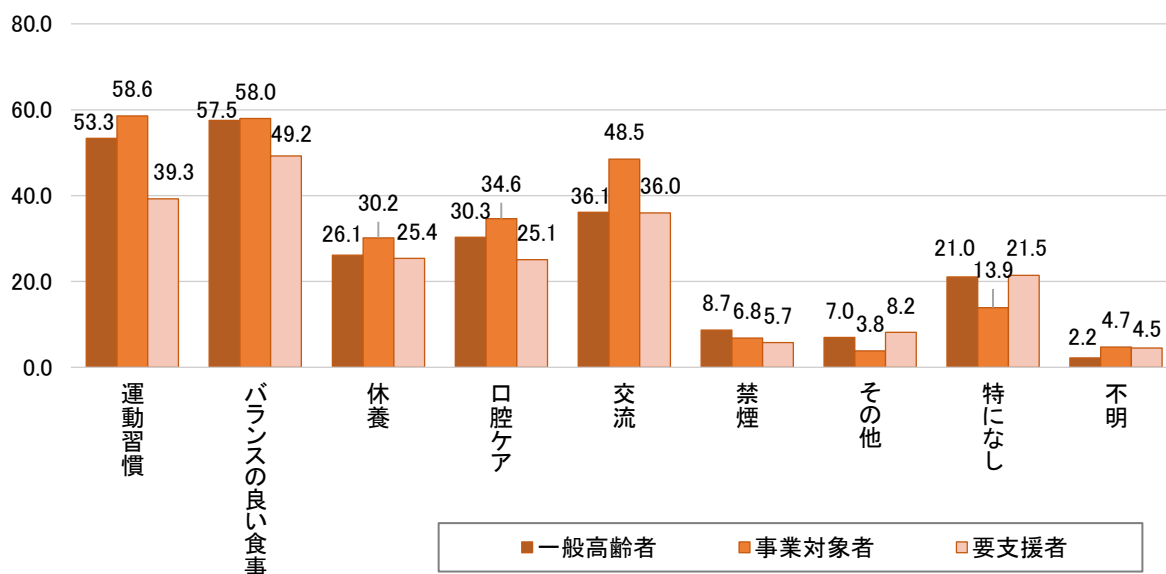
図表7-47: 認知症に関する相談窓口を知っている人の割合(%)



③ 認知症予防

認知症予防のため心がけていることとしては、バランスの良い食事と運動習慣に気を付けている人が多い結果となりました。前回調査（令和4年度）と比べ、各項目の割合は約10ポイント減少しています。また、事業対象者は、一般高齢者・要支援者に比べて、認知症予防に意識的に取り組んでいる割合が多いことが伺えます。

図表 7-48:「認知症予防のために心掛けていることはありますか」の集計結果(%)



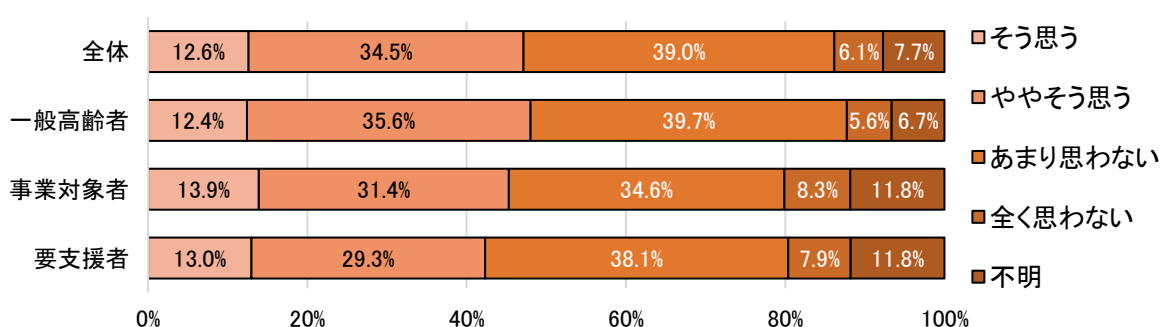
④ 認知症と暮らす社会

認知症の人やその家族にとって住みやすい地域だと思う人の割合は47.1%となっており、前回調査（令和4年度）と比べ、7.1ポイント増加しました。

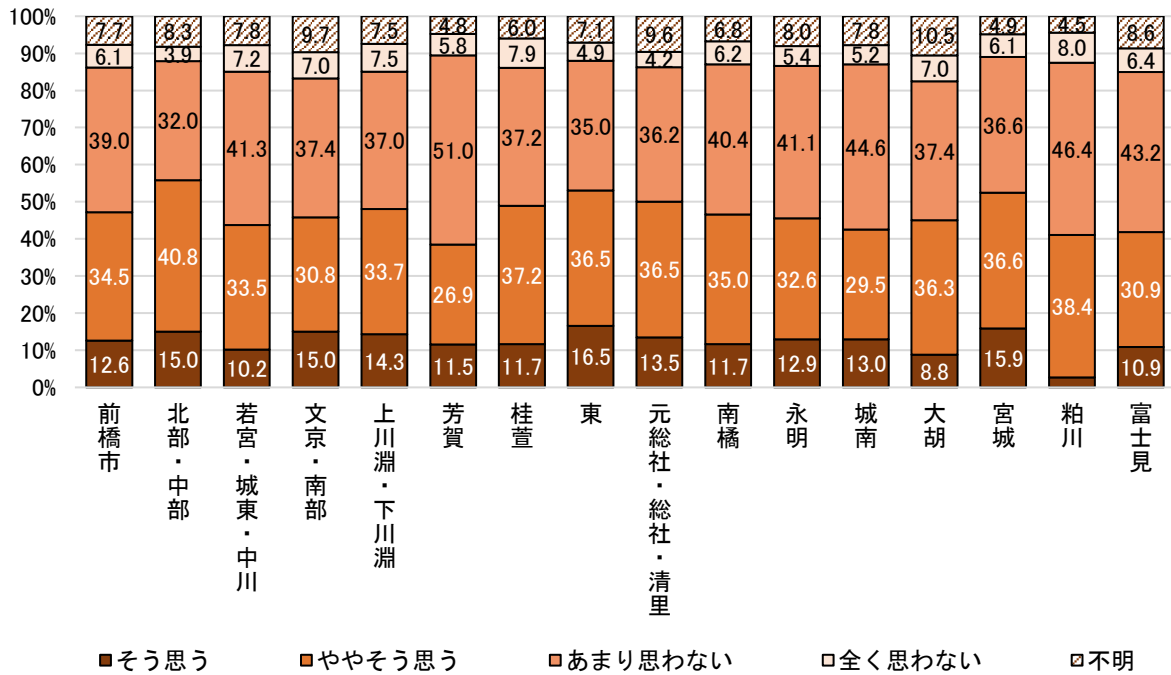
圏域別に見ると、芳賀、粕川地区は住みにくいと答えた人の割合が高くなっています。

家族・親戚以外の身近な人で認知症の症状がある人がいると答えた人の割合を見ると、芳賀、粕川地区の割合が高くなっています。また、その人に対し行っている支援としては、声かけが最も多くなっています。

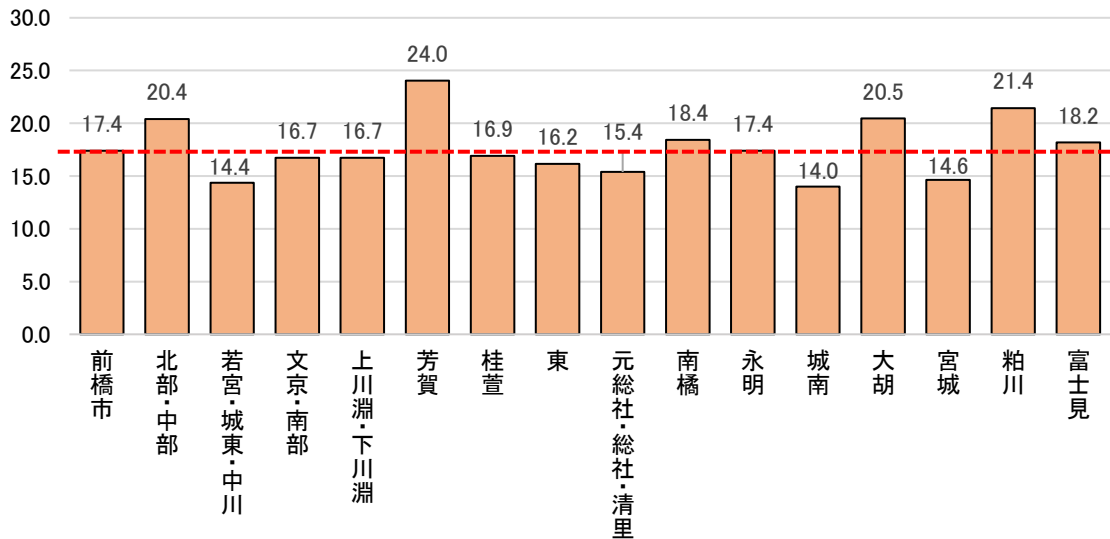
図表7-49: 認知症の人やその家族にとって住みやすい地域だと思う人の割合(%)



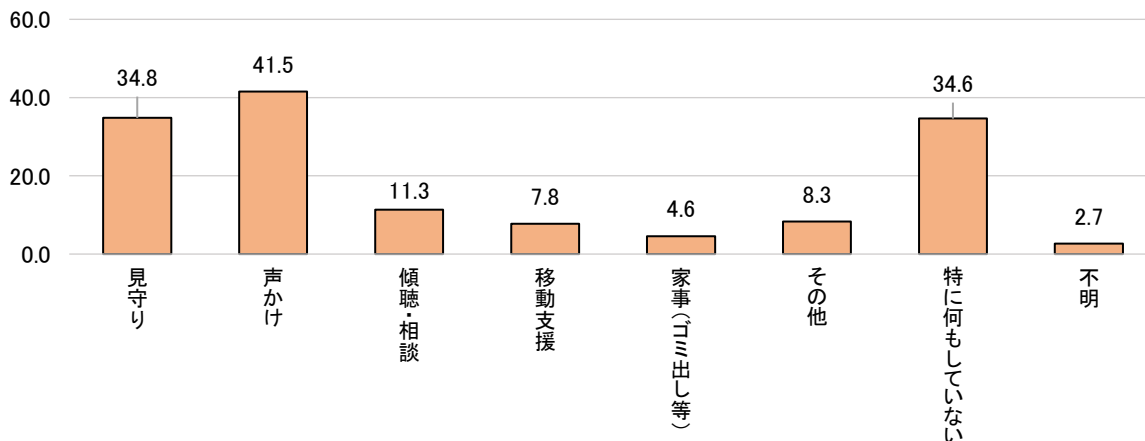
図表7-50:【圏域別】認知症の人やその家族にとって住みやすい地域だと思う人の割合(%)



図表 7-51: 家族・親戚以外の身近な人で認知症の症状がある人がいると答えた人の割合(%)



図表7-52:「家族・親戚以外の認知症の症状がある人への支援」の集計結果(%)

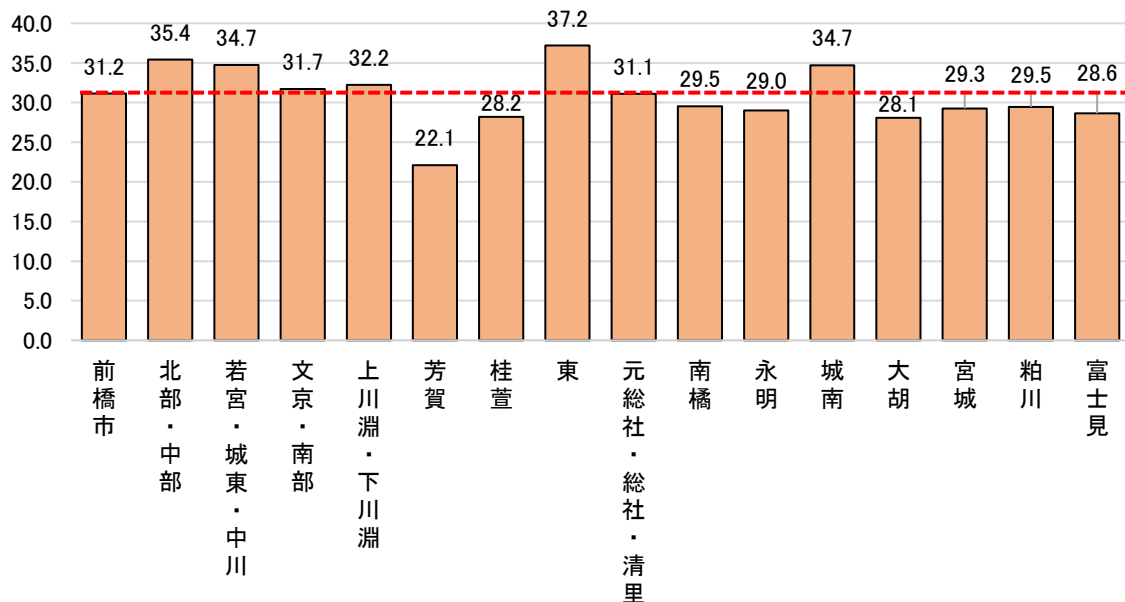


(11) 成年後見制度について

成年後見制度の窓口の認知度は全体では31.2%となっており、前回調査（令和4年度）と比べ、15.3ポイント増加しました。

圏域別に見ると北部・中部、東地区の認知度が高い一方で、芳賀地区の認知度は全体よりも約10%低い結果となっています。

図表7-53: 成年後見制度の窓口の認知度(%)



(12) 地域包括支援センターについて

地域包括支援センターの認知度は44.5%となっており、前回調査（令和4年度）と比べ、11.1ポイント増加しました。

圏域別に見ると若宮・城東・中川、永明地区の認知度が高い一方で、北部・中部、元総社・総社・清里地区の認知度は40%にとどまっています。

図表7-54: 地域包括支援センターの認知度(%)

